

特220

973

43

996

野田町の概況

昭和十一年版



始





特220  
973

日本經濟學  
目次

○目次

一、沿	地勢及氣候	交通	戶數	財政	教育	衛生	產業	社會事業	警備
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一	三	四	四	五	六	六	九	七	九







一、統	計	三三
一、官	公 署	四九
一、町	會議員、委員、區長及區長代理者、吏員	五二
一、各	種 團 體	六〇
一、會	社	六二
一、神	社 佛 閣	六七
一、公	園	七五



# 野田町略圖

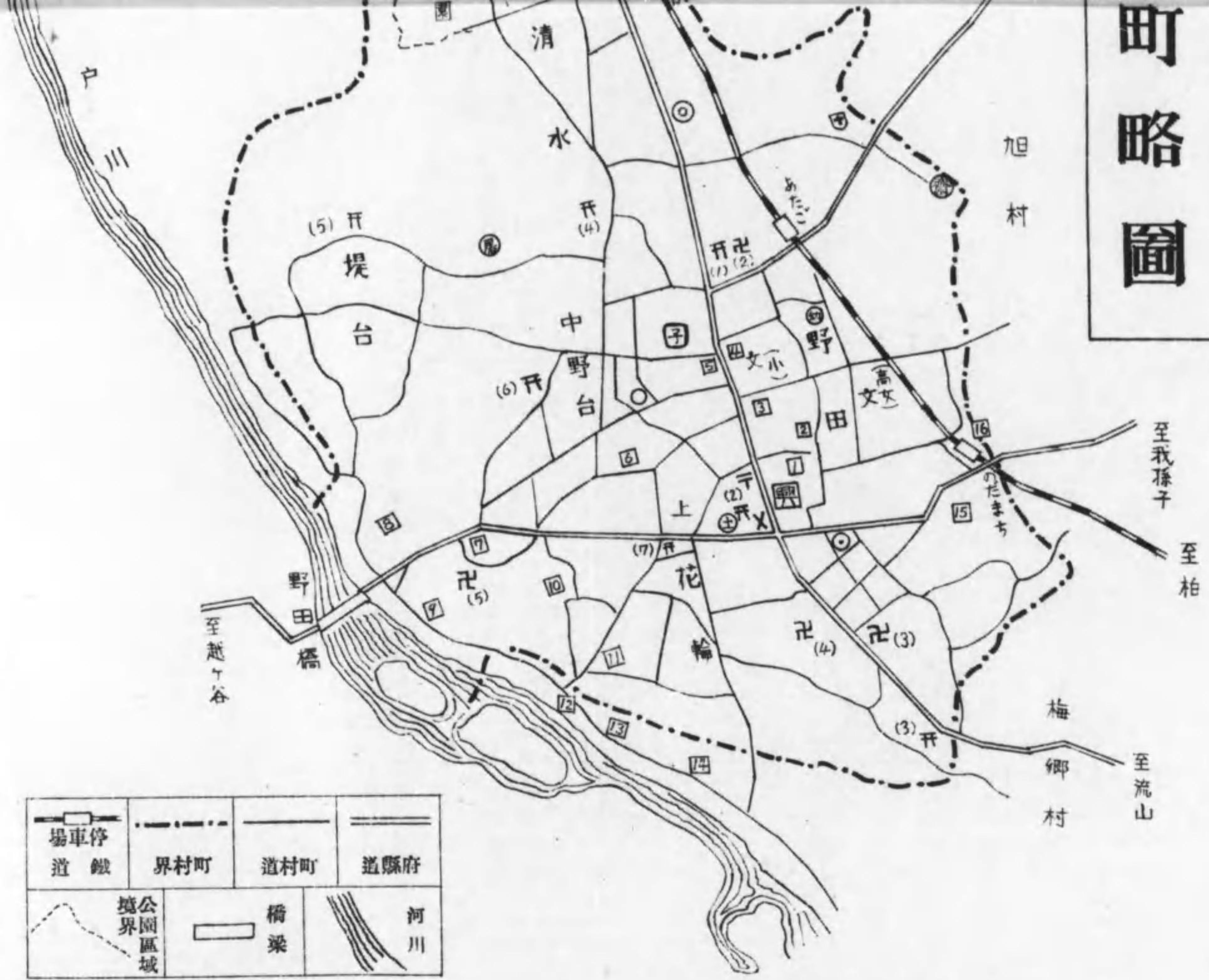


場車停 道 鐵	界村町	道村町	道縣府
境界	公園區域	橋梁	河川

興	子	場	工	野田	土	區	專	郵	警	野	隔	町	幼	文	佛	神	野	符
興	キノ	場	工	野田	土	區	專	郵	警	野	隔	町	幼	文	佛	神	野	符
興	キノ	場	工	野田	土	區	專	郵	警	野	隔	町	幼	文	佛	神	野	符
興	キノ	場	工	野田	土	區	專	郵	警	野	隔	町	幼	文	佛	神	野	符



# 町略圖



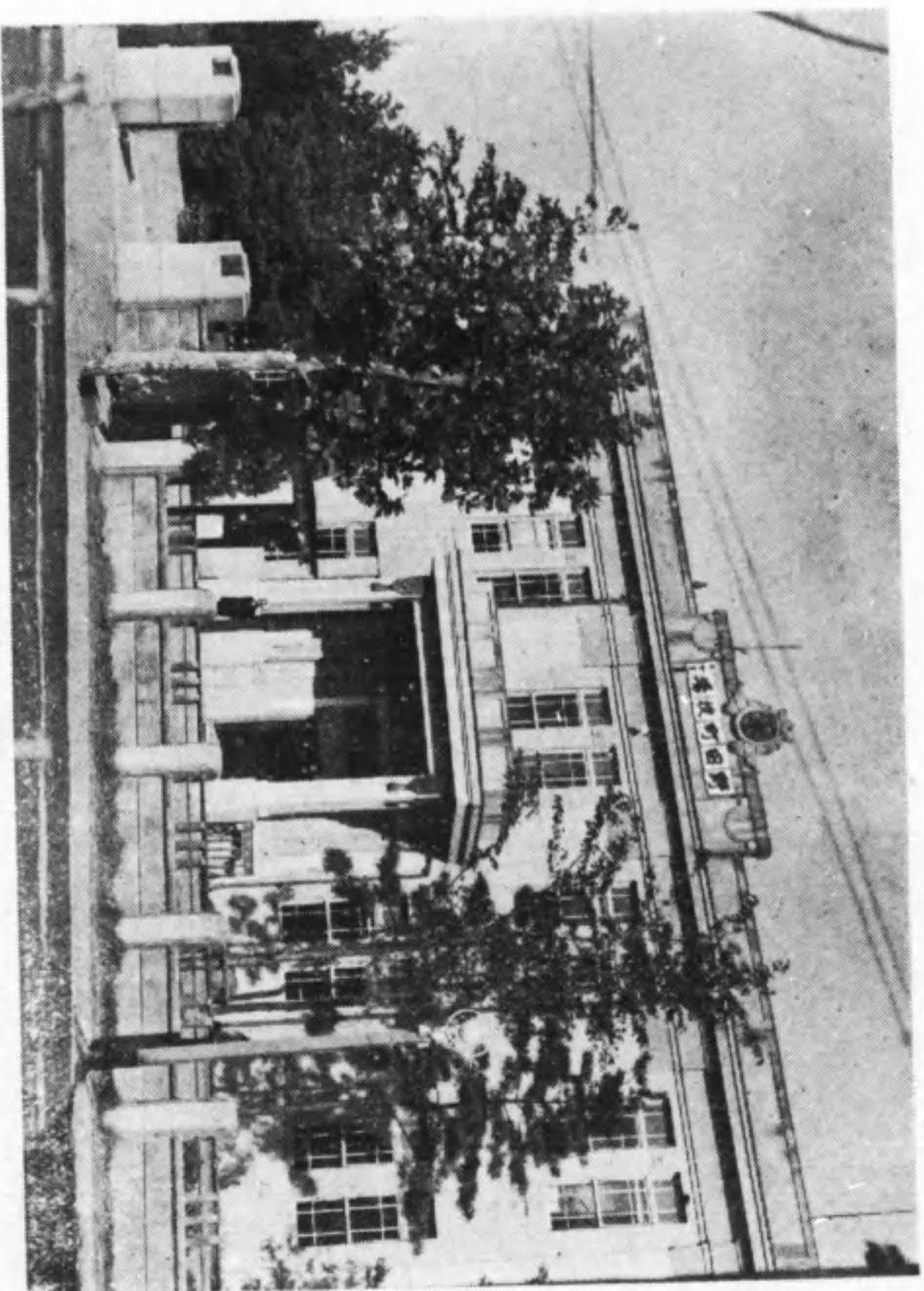
停車場	町界	村界	縣道
鐵道	公園區域	橋梁	河川

興風會館	キノエネ醬油合名會社	野田醬油株式會社	區裁判所出張所	專賣局出張所	郵便局	警察署	野田町齋場	隔離病舎	町營居場	町立幼稚園	文(小)小學校(高女)高學校 學校(農)農學校	佛字 (5)(3)(1) 長命寺 (4)(2) 明淨寺	卍 (7)(5)(3)(1) 愛宕神社 (6)(4)(2) 八幡神社 香取神社 須賀神社 鹿島神社	
15 第十七工場	13 第十二工場	11 第十一工場	9 第九工場	7 第七工場	5 第五工場	3 第三工場	1 第一工場	2 第二工場	4 第四工場	6 第六工場	8 第八工場	10 第十工場	12 第十二工場	14 第十五工場

符號

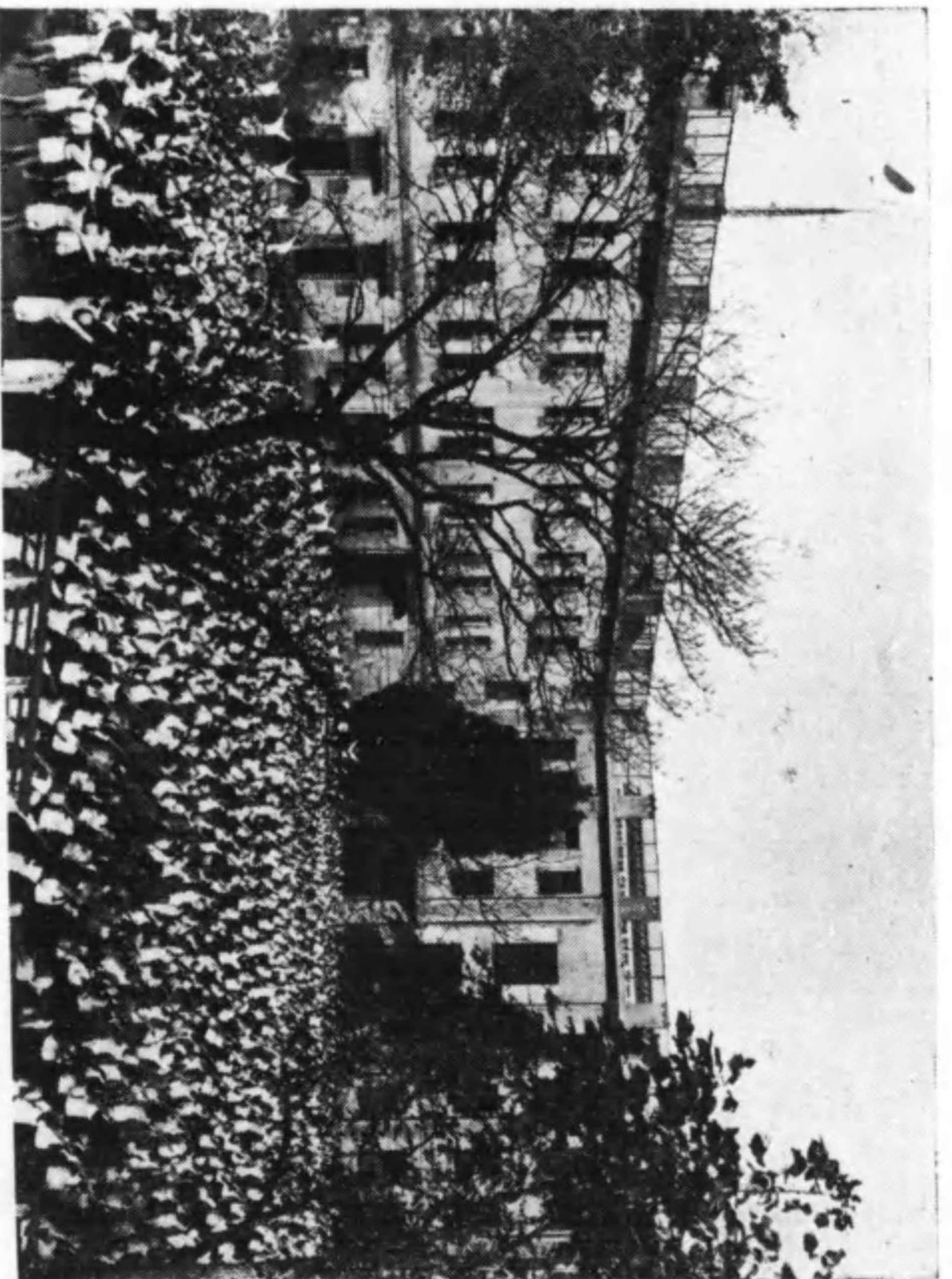


野田町圖



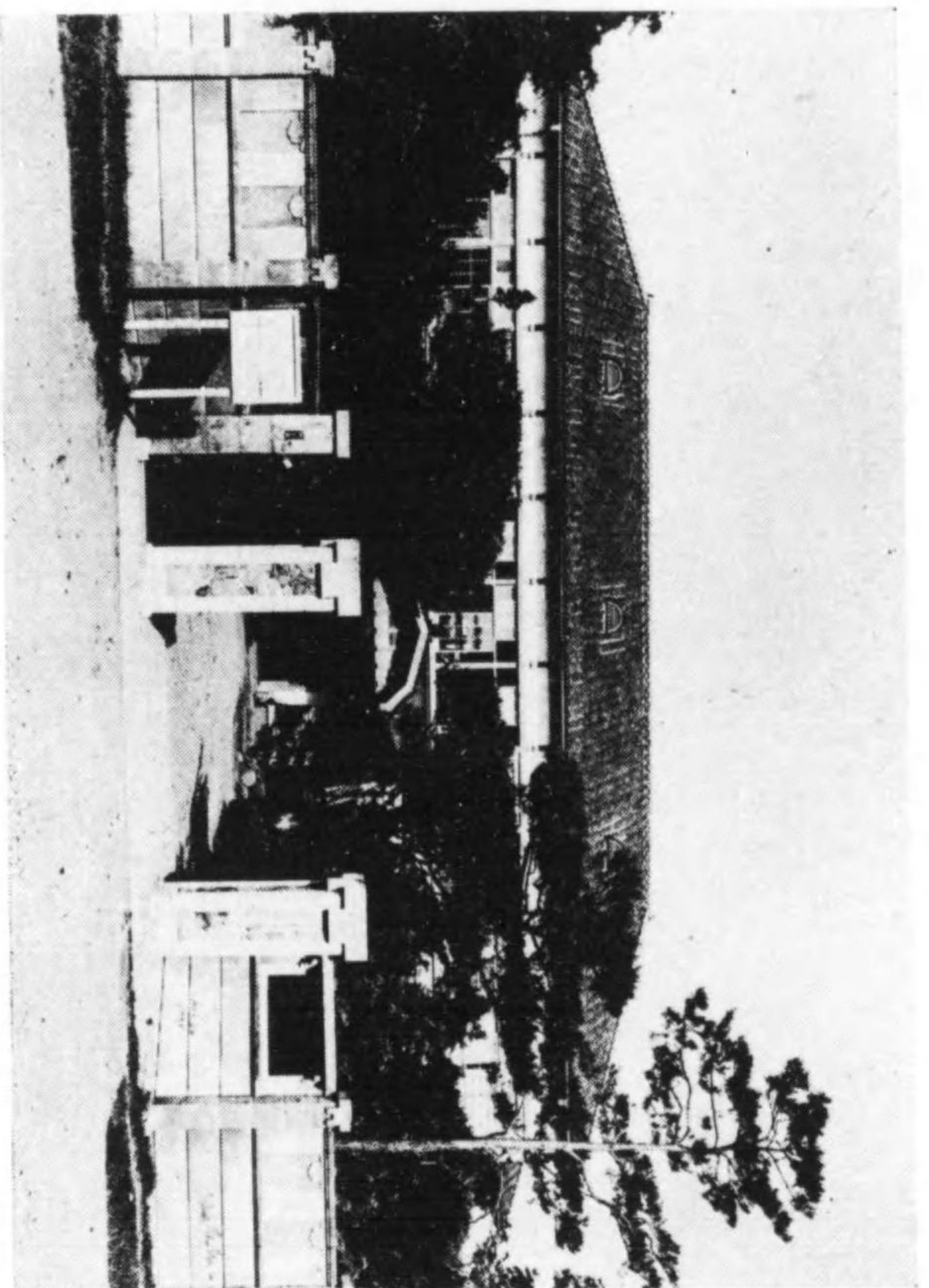
野田町役場





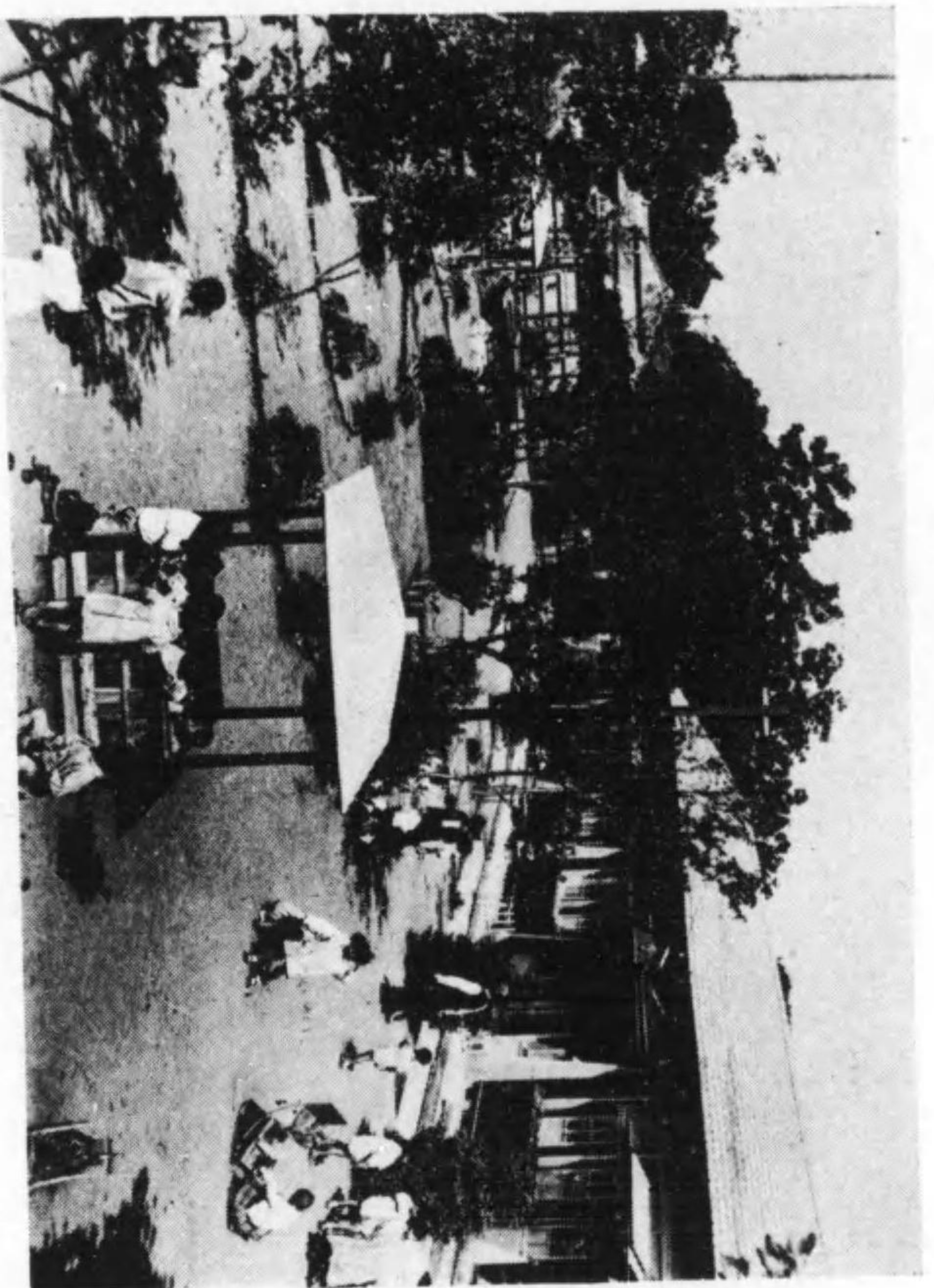
野田高等小学校





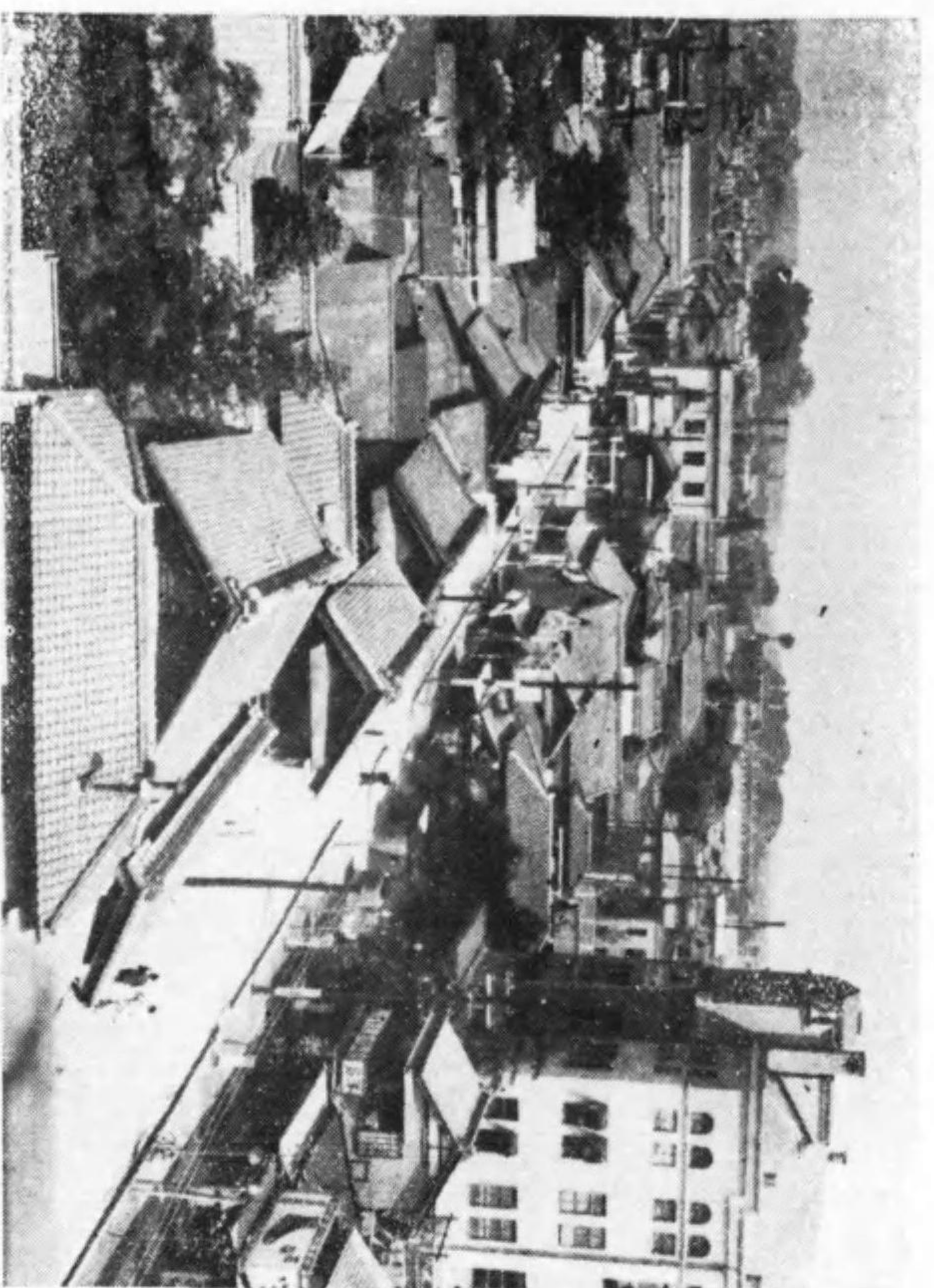
野高田等女學校





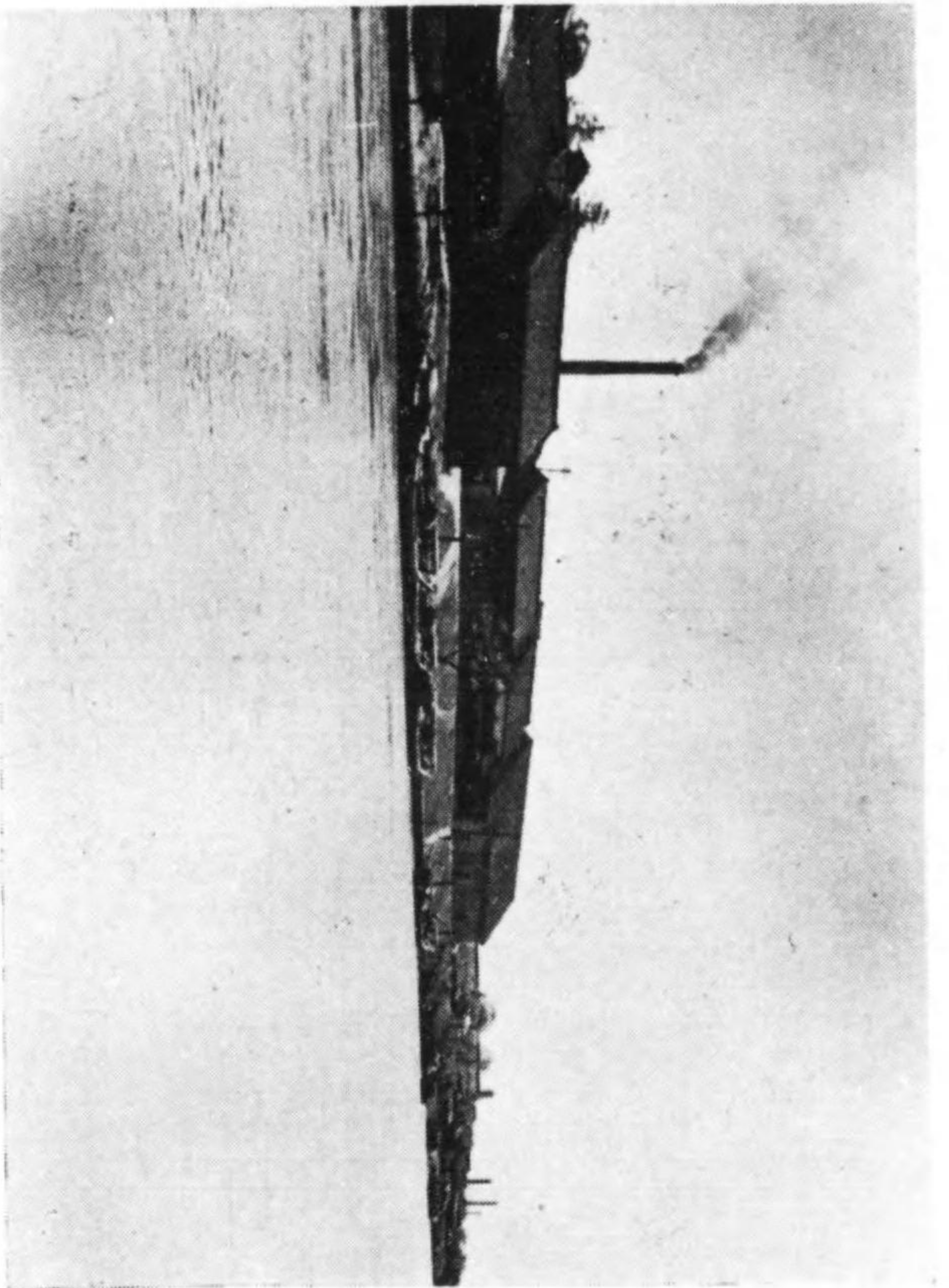
町立田野幼稚園圖





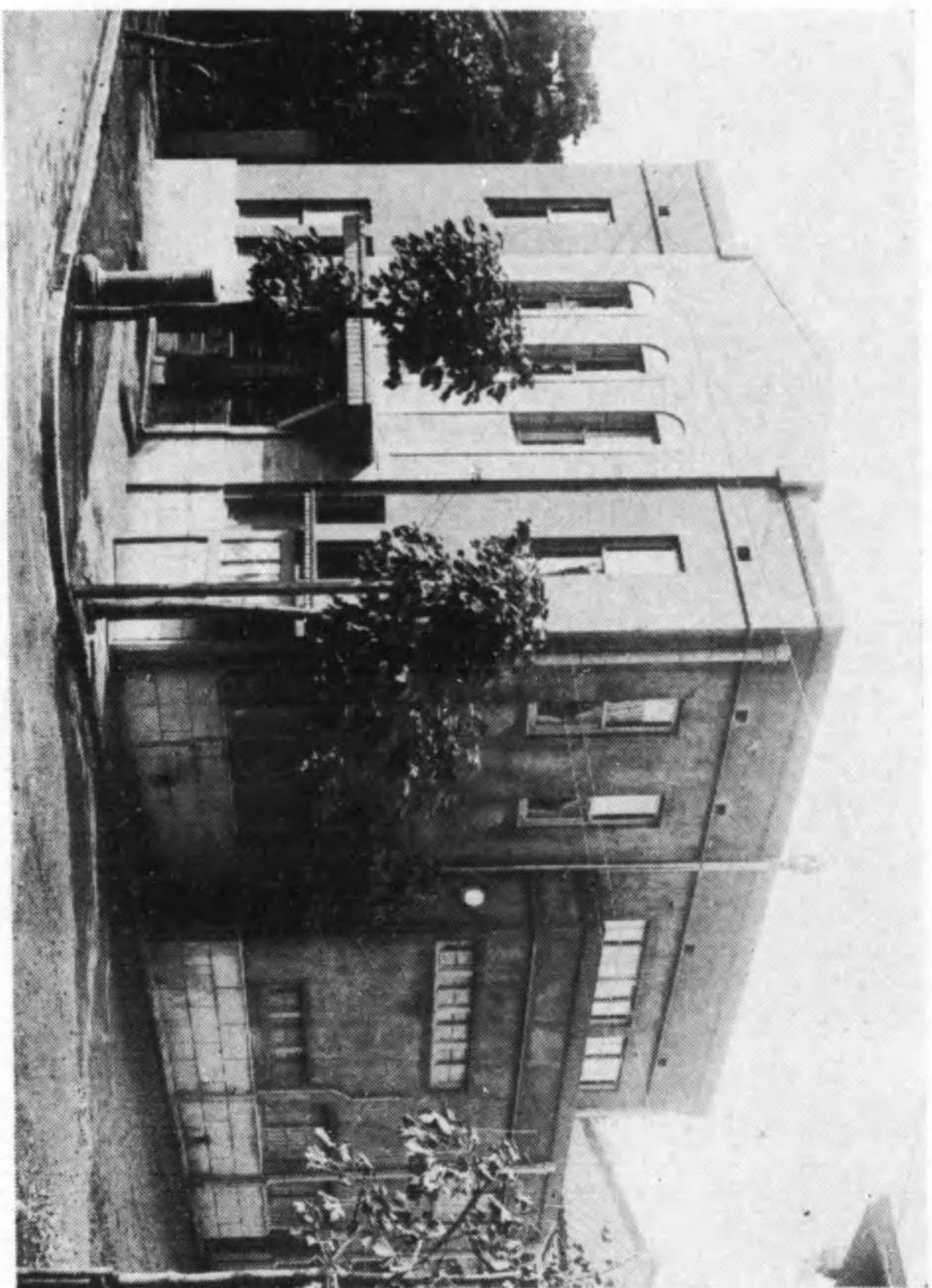
野田町市街





町田野ルタ見リヨ縣玉埼





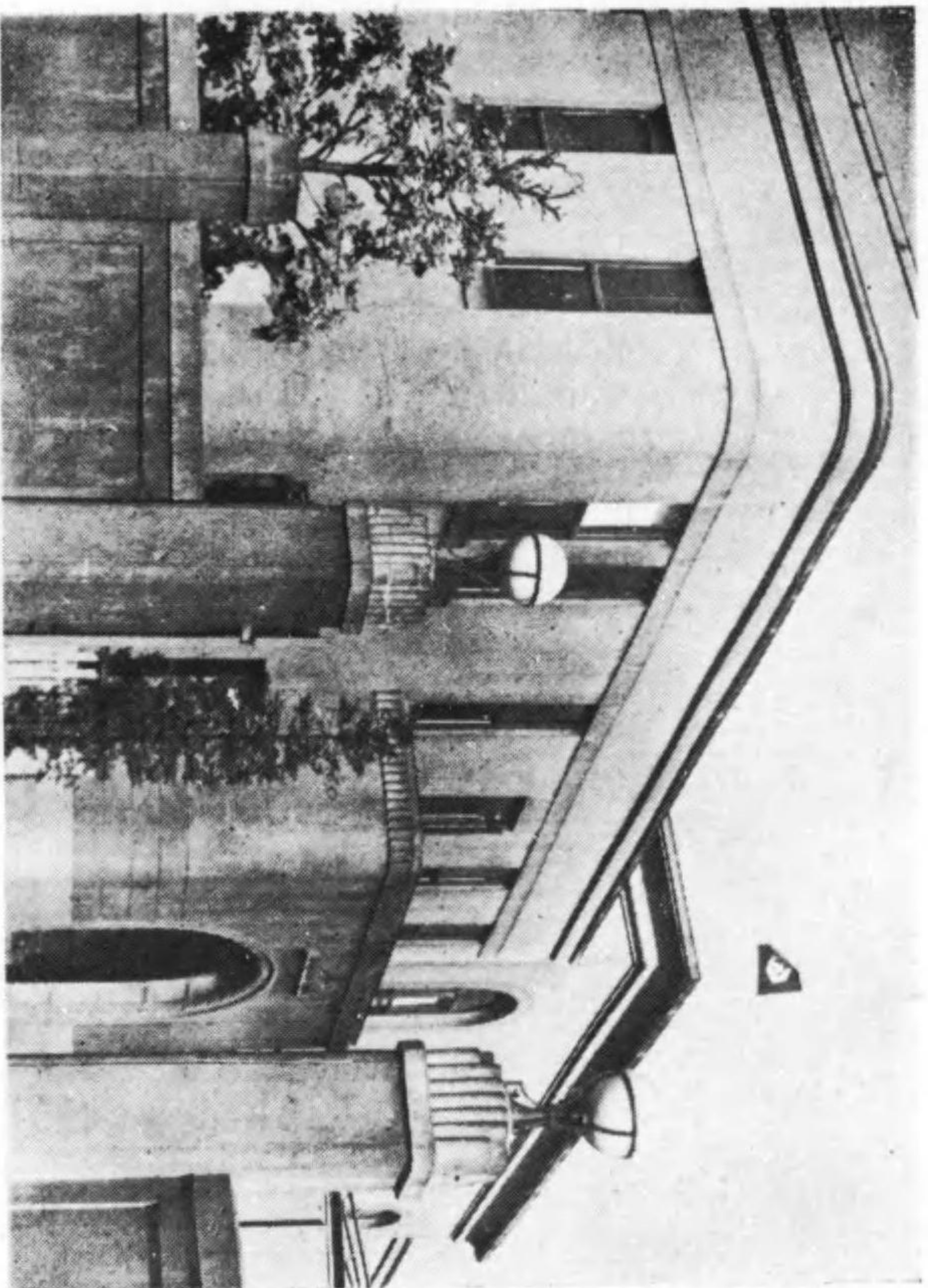
野田郵便局





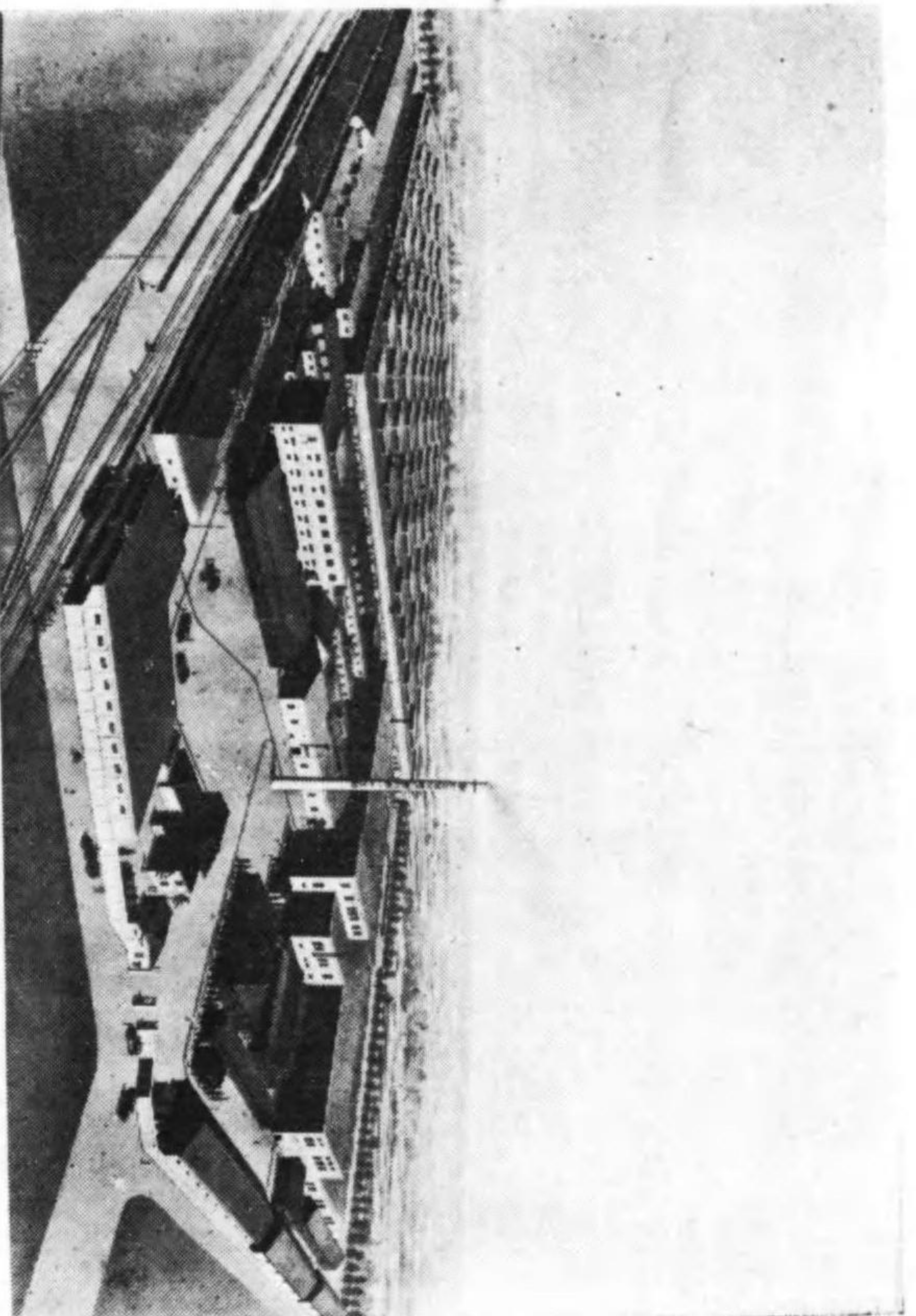
財團法人興風會館





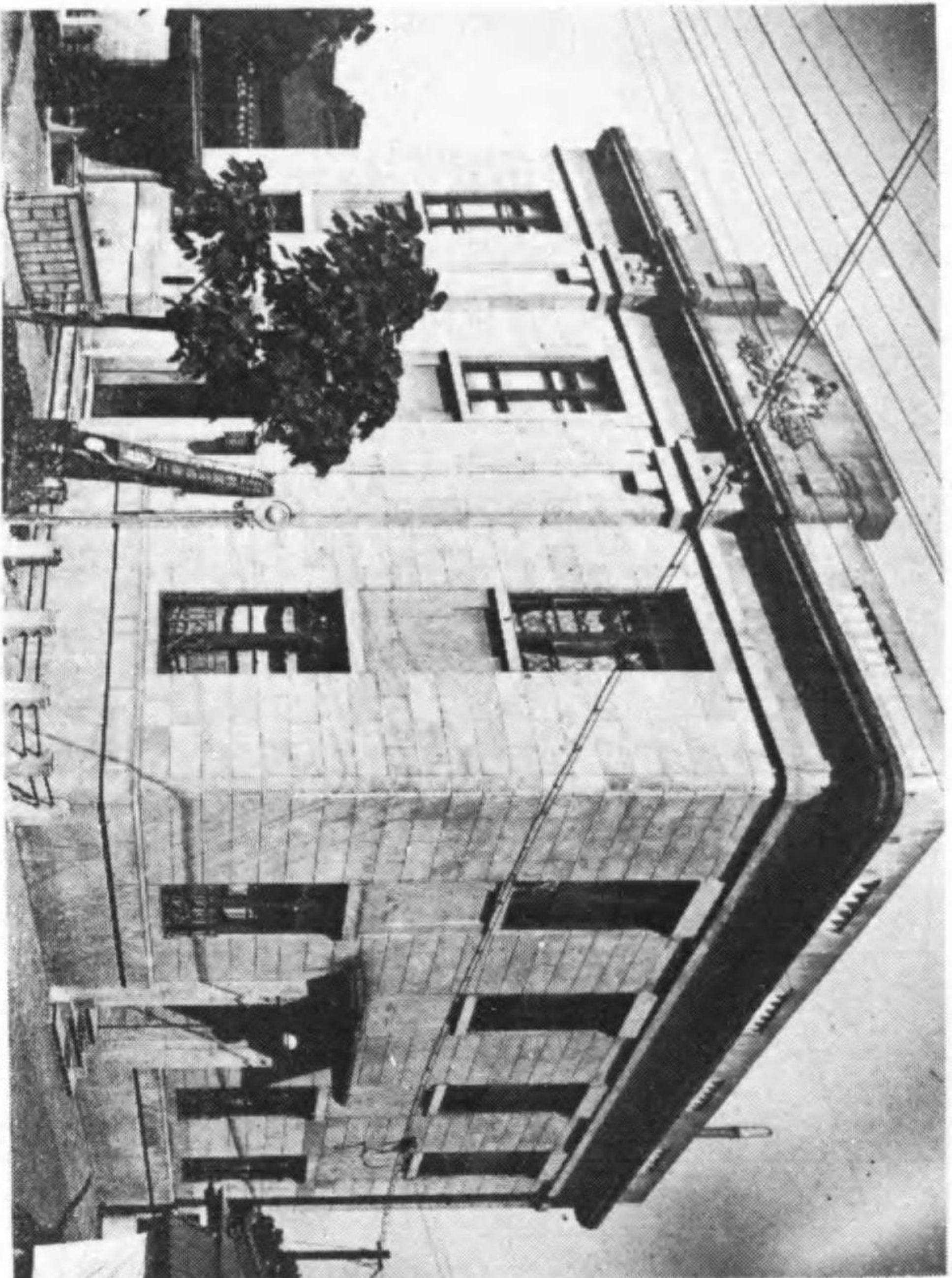
野田醬油株式會社





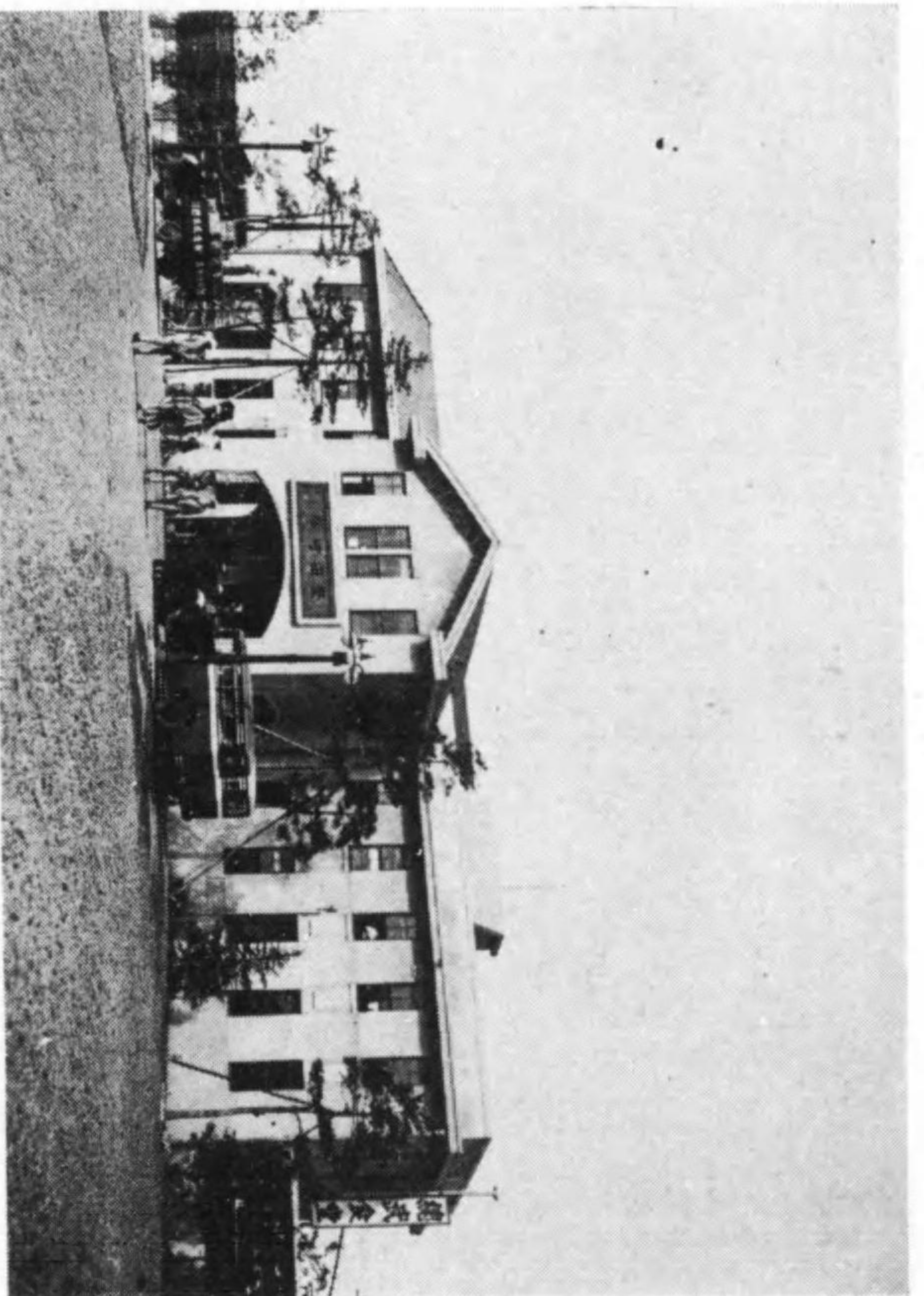
野田石油株式會社第七十工場





野田商誘銀行





總武鐵道株式會社





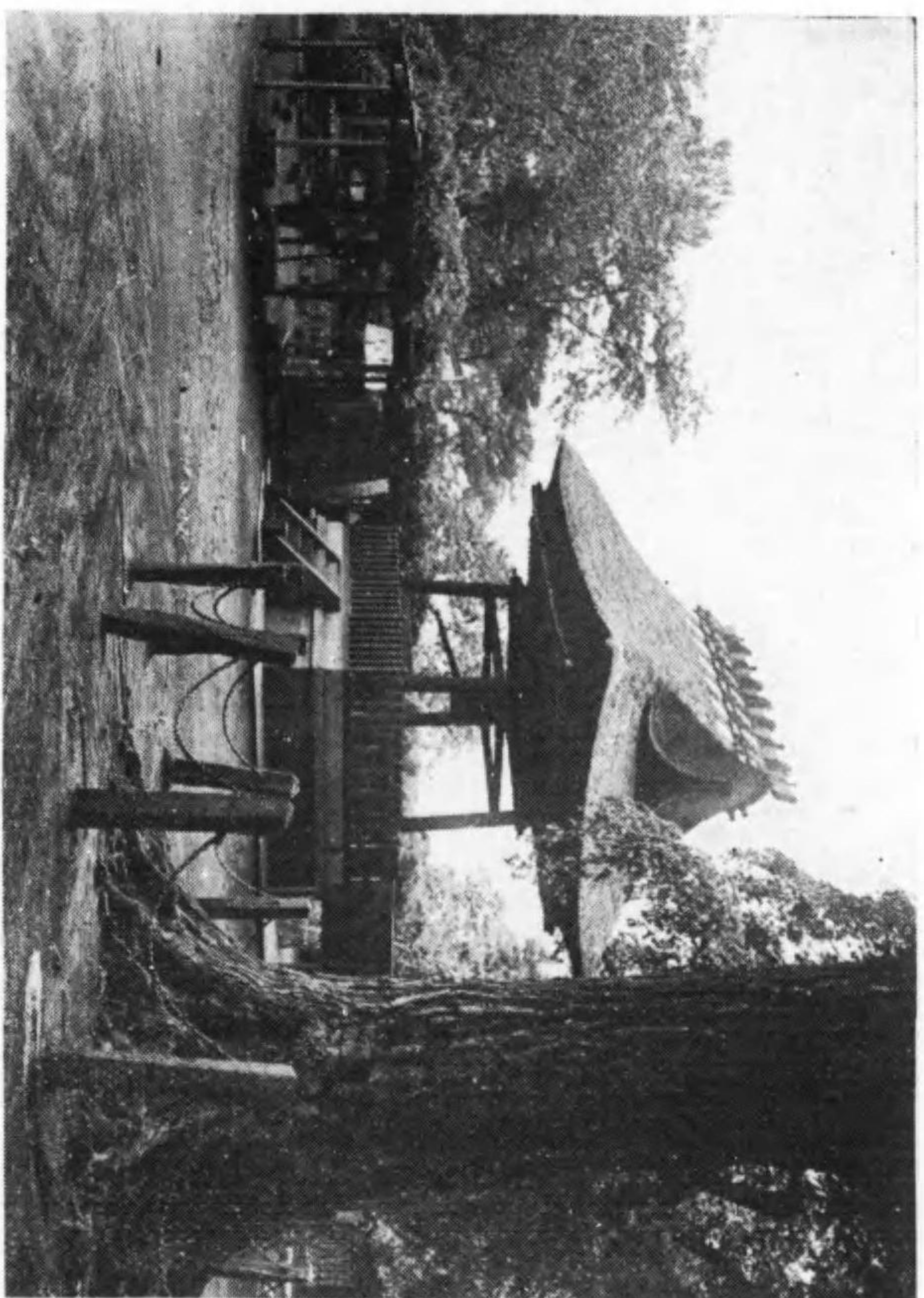
清 水 公 園 (第一園其ノ二)





清 水 公 園 (第 二 公 園)





愛 趣 園





野田町齋場



## ○沿草

康正元年後花園天皇の御宇足利成氏が古河城に據るや重臣野田右馬介を此の地に據らしめた、野田の名は是より起つたのである。野田郷は庄内領五十四ヶ村十六郷の一で足利氏が亡びて、織田信長天下に號令するに及んで天正十八年岡部次郎右衛門長盛一萬二千石を拜領し内膳正に任じ堤臺城に居つた。徳川家康の時代に野田郷は一度關宿領に歸したが、家光の時代正保二年に野田郷は村分けとなり野田、上花輪、中野臺、清水、堤臺の五ヶ村に分轄され、其後更に櫻臺、大殿井を分け、延寶に至るまでに更に中根新田、宮崎新田、堤根新田、花井新田、柳澤新田、座生新田、鶴島新田の七ヶ新田を分つ等種々變遷あり元錄年間中野臺、堤臺は旗本松平源七郎の知行所となつて、其後中野臺は旗本牛込新七、小堀式部、島田權三郎の知行所となつた。寛保二年小堀土佐守は上地し、かくして數十年を経て慶應年間には野田村、堤臺村は旗本松平勘太郎、中野臺村は旗本牛込恒次郎、島田十次郎知行し清水村は天領であつた。其當時各村の石高は中野臺五百二十石一升四合九勺、上花輪四百四石二斗二升八合、堤臺六十四石三斗九升、清水



は四百五十五石五斗九升六合、野田二十一石七斗五合であつた。明治元年三月肥後の細川中將の預り所となり、同年八月下總縣を置くに及び知縣事佐々布貞之允の支配となつた、同二年正月葛飾縣の管轄に屬して第一大區第十二小區に編せられ、後第二大區二小區に變更、明治六年六月千葉縣の管轄となつて第十三大區二小區となつたが、後十二大區十一小區に變更せられて、明治十一年大小區の名稱を廢せられ清水、中野臺、堤臺は清水正光院に戸長役場を設け、尙上花輪村は今上村と組合せられて今上村岡田鷹之助方に、野田町は茂木七左衛門方に戸長役場を設けて町村の事務を取扱つてゐたが、明治十七年八月野田外四ヶ村合併して聯合戸長役場を茂木七郎右衛門方に設けられ茂木兵三郎氏が戸長となつた。明治二十二年四月町村制實施に際して清水村、堤臺村、中野臺村、上花輪村野田町を合併して野田町となり、爾來年を逐ふて人口増加し、町勢又著しく發達して今日の繁榮を見るに至つた。昭和九年十一月二十四日都市計畫區域に指定せられ、將來の躍進を企圖しつゝあり、今歴代の町長を擧ぐれば左の如し。

代別	氏名	就職年月日	備考
----	----	-------	----

初代	宮野三五郎	明治二十二年六月十八日	明治三十九年五月二日退職
二代	齋藤倉吉	明治三十九年五月十六日	大正十一年五月二十三日退職
三代	石塚靜次郎	大正十一年五月二十四日	大正十三年九月十日退職
四代	中川仲右衛門	大正十三年十一月二十四日	大正十五年九月五日退職
五代	茂木要右衛門	大正十五年十月四日	昭和八年十二月二十八日死亡
六代	飯田謙次郎	昭和九年九月七日	

### ○土地

千葉縣東葛飾郡の北部に位し、陸路東京へは三十四軒九百九十二米（約九里）、縣廳所在地千葉市へは五十四軒五百四十米（約十三里餘）の地點にあつて、東西一軒六百九米餘、南北三軒四百九十一米面積凡そ五萬四千九百四十二アール（段別約五百五十四町歩）で東は本郡旭村に接し、西は江戸川の流を隔て



、埼玉縣北葛飾郡金杉村に、南は本郡梅郷村、北は同七福村に接して居る。

### ○地勢及氣候

西は江戸川東北は利根川、南に利根運河があつて南北に長く、带状の市街地で東經百三十九度五十二分北緯三十五度五十六分地勢平坦地味肥沃である、氣候は概して溫和なり。

### ○交通

水路は江戸川を利用し、溯行すれば關宿町を經由して、茨城、群馬、栃木、地方に、下航すれば六漕で東京に達し、又程近き利根運河によつて利根川に出て銚子方面より霞ヶ浦、土浦、高濱、鹿島、銚田方面に通じ、又陸上の交通は最近總武鐵道の電化によつて一層便利となり、町内に野田町、愛宕、清永公園の三停車場がある。南は柏驛にて常磐線と連絡し、又北は柏壁驛にて東武線と合し更に進んで大宮驛で東北本線や信越線とも連絡することが出来る。最近乗合自動車の發達により北は茨城縣境町及岩井町方

面に、南は運河を経て流山方面に、西は越ヶ谷驛方面に至る便がある。

### ○戸數、人口

昭和十年國勢調査の結果に依れば、戸數四千二百十六戸、人口男九千五百七十一人、女九千九百八人、計一萬九千四百七十九人にして前年に比し戸數九十二戸、人口六百五十七人を増加してゐる。

○行政区別現住戸數、人口、

(各年十月一日現在)

年次	野田		中野臺		上花輪		清水		堤臺		計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
昭和七	一、二九一 <sup>戸</sup>	六、三四〇 <sup>人</sup>	一、二九六 <sup>戸</sup>	五、三三四 <sup>人</sup>	九三〇 <sup>戸</sup>	四、二四〇 <sup>人</sup>	六九二 <sup>戸</sup>	三、二五五 <sup>人</sup>	六三 <sup>戸</sup>	三、四九 <sup>人</sup>	四、一七二 <sup>戸</sup>	一、九、二六四 <sup>人</sup>
昭和八	一、三〇四	六、二六四	一、二一九	五、二〇九	九三八	四、二二九	七〇〇	三、一七六	六二	三、五〇	四、二二三	一、九、一四八
昭和九	一、二六九	六、〇七	一、二四七	五、一三三	九四二	四、二二三	七〇七	三、一〇一	六〇	三、四〇	四、二四四	一、八、八三三
昭和十	一、二八五	六、一七〇	一、二七七	五、二九九	九五七	四、三五六	七三七	三、三二二	六〇	三、四二	四、二六六	一、九、四七九



○財 政

昭和十一年度本町歳入出豫算並に特別會計公益質屋歳入出豫算を擧ぐれば左の通り

昭和十一年度野田町歳入歳出豫算

歳 入

一金二十萬四千七十七圓

歳入豫算高

歳 出

一金十八萬七千四十五圓

經常部豫算高

一金一萬七千三十二圓

臨時部豫算高

歳出合計金二十萬四千七十七圓

内 譯

歳 入

科 目	金 額	科 目	金 額
第一款 財産ヨリ生ズル收入	三、五二 <sub>四</sub>	第七款 縣 助 成 金	一〇 <sub>四</sub>
第二款 使用料及手數料	一七、〇九 <sub>四</sub>	第八款 縣 獎 勵 金	四七 <sub>四</sub>
第三款 交 付 金	一、一、六九 <sub>四</sub>	第九款 寄 附 金	一、一〇 <sub>六</sub>
第四款 國庫下渡金	二五、七五 <sub>五</sub>	第十款 繰 越 金	三、六二 <sub>九</sub>
第五款 國 庫 補 助	四三 <sub>二</sub>	第十一款 雜 收 入	二、三六 <sub>五</sub>
第六款 縣 費 補 助	二、七六 <sub>六</sub>	第十二款 町 稅	一七、一〇〇
歳入總計金二十萬四千七十七圓			

歳 出



經常部

科	目	金額	科	目	金額
第一款	神社費	一六〇 <sup>円</sup>	第十款	公園費	九八 <sup>円</sup>
第二款	會議費	三六四	第十一款	齋場費	一、〇五六
第三款	役場費	三〇、八五〇	第十二款	勸業費	二二五
第四款	土木費	二三、三五二	第十三款	統計費	七八
第五款	教育費	二二、六六七	第十四款	屠場費	九〇四
第六款	學事諸費	一、二六〇	第十五款	授產場費	三、七〇五
第七款	傳染病豫防費	三七七	第十六款	救助費	三〇
第八款	隔離病舍費	七〇	第十七款	救護費	四九四
第九款	汚物掃除費	五	第十八款	警備費	六、五九六

第十九款	基本財産造成費	七、〇一六	第二十四款	選舉費	一八三
第二十款	財産費	二、三〇六	第二十五款	經濟更生諸費	二五九
第二十一款	諸稅及負擔	九	第二十六款	雜支出	一五九
第二十二款	公金取扱費	三	第二十七款	豫備費	二、四〇〇
第二十三款	地方改良費	八五〇			

經常部計金十八萬七千四十五圓

臨時部

科	目	金額	科	目	金額
第一款	役場營繕費	八〇〇 <sup>円</sup>	第三款	小學校營繕費	五、〇〇〇 <sup>円</sup>
第二款	齋場設備費	二三〇	第四款	積辰金	六、三六〇



第五款 寄附金	一、三五	第八款 積立金	一七
第六款 警備費	四〇〇	第九款 補助費	二、五六五
第七款 勞働統計實地調査費	二八五		
臨時部計金 一萬七千三十二圓			
歲出合計金 二十萬四千七十七圓			

昭和十一年度野田町特別會計公益質屋歲入歲出豫算

歲入

科	目	金額	科	目	金額
第一款	貸付金收入	三九、二〇〇 <small>円</small>	第三款	運轉資金繰越金	二〇、〇〇〇 <small>円</small>
第二款	流質物賣却代	四、五〇〇	第四款	雜收入	一八二

歲入總計金六萬三千八百八十二圓

歲出

科	目	金額	科	目	金額
第一款	質屋經營費	一、八五 <small>円</small>	第五款	流出物賣却殘餘金	七五 <small>円</small>
第二款	貸付金	四、〇〇〇	第六款	運轉資金繰越金	一〇、〇〇〇
第三款	罹災救助資金繰入金積戻	一、三三八	第七款	豫備費	二〇二
第四款	管理費	四三			
歲出合計金 六萬三千八百八十二圓					

○各年度戸數一戸當リ人口一人當リ經費(豫算)並町稅(豫算)負擔額



年度	戸数	人口	経費	一戸當り	一人當り	町税	一戸當り	一人當り
大正五	二,四四三	一一,五四九	三,五九三	一四・九三	二・七五	一四,四七五	五・八八四	一・二五
大正九	二,八〇〇	一一,九二四	六五,七二八	二三・三〇七	五・五二六	五二,四三三	一八・三三八	四・三七
大正十三	三,三三三	一四,四八八	一五九,七七〇	四九・七四二	一一・〇二七	七八,八二六	二四・五三七	五・四四〇
昭和三	三,八二六	一七,六〇六	一九三,三三二	五〇・六六〇	一〇・九八〇	一三三,五六九	三五・〇〇二	七・五八六
昭和五	四,一五七	一九,二九一	一八四,八〇四	四四・四五五	九・五七九	一二七,六七三	三〇・七二二	六・六二八
昭和六	四,〇三二	一八,九二二	一七六,五六六	四三・七九七	九・三三〇	一二六,二三八	二八・八三五	六・一四三
昭和七	四,一七二	一九,二六四	一七六,八四六	四二・三三八	九・一八〇	一二四,一九七	二七・三七二	五・九二八
昭和八	四,一〇三	一九,一四八	一八八,七三三	四四・九〇二	九・八五六	八九,五四九	二二・三〇五	四・六七六
昭和九	四,二四	一八,八三三	一八五,七四〇	四五・〇三八	九・八六八	九〇,二八一	二二・八九二	四・七九六
昭和十	四,二二六	一九,四七九	二二〇,五〇一	四九・九九九	一〇・八〇六	一二四,一九五	二九・四八一	六・三八〇

昭和十一	四,二二六	一九,四七九	二〇四,〇七七	四八・四〇五	一〇・四七六	一二七,二〇〇	二七・七九八	六・〇二六
------	-------	--------	---------	--------	--------	---------	--------	-------

○町基本財産並資金 (各年度末現在)

年度	種別	土地価格	建物価格	諸公債	諸株	現金	罹災救助資金	貧民救助資金	學齡兒童保護資金	合計
昭和四		一七〇	四二	一,八〇〇	一,七八〇	九二,三五	三七,九五	一一,五〇	四,〇二	一四八,九八
昭和五		一七〇	一〇六	一,八〇〇	一,七八〇	九二,八八五	四四,五五九	一一,九一〇	四,七二	一五八,〇二
昭和六		一七〇	二〇六	一,八〇〇	一,七四〇	一五,四二	五〇,二六六	一一,二八六	四,九七九	八六,八五九
昭和七		一七〇	一九六	一,八〇〇	一,六六〇	一五,五〇	五六,二二四	一一,六六八	五,二二三	九三,四三三
昭和八		一七〇	一九六	一,八〇〇	一,六六〇	一五,五〇	三七,七六三	一一,〇四二	五,四四八	七五,五八〇
昭和九		一七〇	一〇〇	一,八〇〇	一,六〇〇	一五,六二	四四,〇五〇	一三,四〇六	五,六八三	八二,四三一
昭和十		一七〇	一〇〇	一	一,六〇〇	一八,四八二	四七,五五六	一六,六七七	五,九二二	九〇,四九六



## ○ 教 育

一、野田高等女學校

○設備の概要

校地 三、三六七坪一四、 校舍 八三二坪九〇、

コノ字形二階建一棟外四棟、

普通教室七、特別教室五、標本室三、自習室四、

講堂、校長室、職員室、會議室、週番控室、圖書室、圖書習字鑑賞室、洗濯場、宿直室、事務室、

應接室、使丁室、溫室、各一、倉庫三、便所三ヶ所、

年 度	種 別	總經費		均經費		生徒一人		職員平均		學級數	生徒數	職 員					
		(豫算)	円	円	円	円	円	給	給			校長	教諭	嘱託	書記	校醫	計
大正十四		一八、七四二	円	九、三七二	円	一八七・四二	円	八四七・五〇	円	二	一〇〇人	一	三	三	一	三	一
昭和十五		一九、六四五		六、五四八・三		一三三・八四		一一五二・二五		三	一四九	一	四	二	一	三	二
昭和十六		一三、〇七六		五、七六九・〇〇		一一三・四五		一一五八七・五〇		四	一九〇	一	五	一	一	三	一
昭和十七		二七、六七二		五、五四二・〇〇		一一七・五五		一一四〇〇・〇〇		五	二三六	一	八	一	一	三	一
昭和十八		二六、六六九		五、三三三・八〇		一一二・五二		一一三〇〇・〇〇		五	二二七	一	九	一	一	三	一
昭和十九		二四、二九三		四、八八八・六〇		九九・五六		一一三〇〇・〇〇		五	二四四	一	九	一	一	三	一
昭和二十		二三、七九八		四、七五九・六〇		一〇三・九二		一一二六・九二		五	二二九	一	八	一	一	三	一
昭和二十一		二二、七六六		四、三四五・二〇		九〇・一九		八七〇・八二		五	二四二	一	一〇	一	一	三	一
昭和二十二		二三、四八五		四、四九七・〇〇		八六・八一		九六六・九三		五	二五九	一	八	一	一	三	一
昭和二十三		二三、三六三		三、五〇・五〇		八八・二七		九八〇・二八		六	二四二	一	九	一	一	三	一
昭和二十四		二二、九〇四		三、二九・一四		七九・六五		九四九・三三		七	二七五	一	九	一	一	三	一
昭和二十五		二三、一三九		二、七七・三七		七七・四〇		一一八〇・〇〇		八	二八六	一	二	一	一	三	一

年 度	種 別	總經費	均經費	生徒一人	職員平均	學級數	生徒數	校長	教諭	嘱託	書記	校醫	計
大正十五		一九、六四五	六、五四八・三	一三三・八四	一一五二・二五	三	一四九	一	四	二	一	三	二
昭和十六		一三、〇七六	五、七六九・〇〇	一一三・四五	一一五八七・五〇	四	一九〇	一	五	一	一	三	一
昭和十七		二七、六七二	五、五四二・〇〇	一一七・五五	一一四〇〇・〇〇	五	二三六	一	八	一	一	三	一
昭和十八		二六、六六九	五、三三三・八〇	一一二・五二	一一三〇〇・〇〇	五	二二七	一	九	一	一	三	一
昭和十九		二四、二九三	四、八八八・六〇	九九・五六	一一三〇〇・〇〇	五	二四四	一	九	一	一	三	一
昭和二十		二三、七九八	四、七五九・六〇	一〇三・九二	一一二六・九二	五	二二九	一	八	一	一	三	一
昭和二十一		二二、七六六	四、三四五・二〇	九〇・一九	八七〇・八二	五	二四二	一	一〇	一	一	三	一
昭和二十二		二三、四八五	四、四九七・〇〇	八六・八一	九六六・九三	五	二五九	一	八	一	一	三	一
昭和二十三		二三、三六三	三、五〇・五〇	八八・二七	九八〇・二八	六	二四二	一	九	一	一	三	一
昭和二十四		二二、九〇四	三、二九・一四	七九・六五	九四九・三三	七	二七五	一	九	一	一	三	一
昭和二十五		二三、一三九	二、七七・三七	七七・四〇	一一八〇・〇〇	八	二八六	一	二	一	一	三	一











○ 衛 生

名稱	位 置	置 設 年 月	備 考
隔離病舎	野田字山王山下	大正十四年六月	<p>○設備の概要                  敷地 一千坪                  木造瓦葺平家建事務室一棟及附屬便所一棟此の                  建坪四十三坪五合、木造スレート葺平家建病室                  及附屬一棟此の建坪三十三坪三合、木造瓦葺平                  家建病室一棟四十五坪七合八勺、木造スレート                  葺病室及浴場一棟十五坪三合八勺、其の他附                  屬建物(消毒室、糞便焼却及死體安置室、患者便                  所及浴場、物品交換消毒所)五棟此の建坪二十坪</p>
野田屠場	清水字出井ノ下	昭和九年七月	<p>○設備の概要                  敷地 四百一十一坪                  木造瓦葺平家建一棟及附屬建物一棟此の建坪六                  十四坪二合七勺</p>

野田町齋場	野田字畦ヶ谷	昭和十年十二月	<p>○使用料及手数料                  豚一頭に付一圓 使用人自ら屠殺する場合                  十錢外に縣稅四十錢 町稅三十二錢 檢査手数料                  十五錢</p> <p>○設備の概要                  敷地 四百坪</p> <p>本館 純日本式平安朝型木造平家建屋根スレ                  一ト横一文字葺 建坪三十五坪</p> <p>附屬家 (事務室、待合室、火夫住宅其ノ他)                  木造平家建屋根トタン葺建坪二十五坪                  七合五勺</p> <p>納骨堂 本造平家建屋根トタン葺地下コンクリ                  一ト造建坪一坪</p> <p>○火葬装置                  特許堀野式重油火葬爐二基(寢棺一基、座棺一                  基)火葬爐は鐵筋コンクリート造り内部耐火煉                  瓦積にして各馬力の重油燃料器を備へ火力千                  四百度以上無煙無臭然して一體平均一時間外                  にて焼却し得る機能有す排氣筒は鐵筋コンクリ                  ート造り避雷針鐵製梯子附にして高さ地上よ</p>
-------	--------	---------	---







年次	昭和十五元	昭和十二	昭和十三	昭和十四	昭和十五	昭和十六	昭和十七	昭和十八	昭和十九
種別	肺結核	結核性 膜炎	腸結核	喉頭結核	結核性 腹膜炎	計	全死亡 人員	死亡者 總數 =對スル 結核死亡	
昭和十五元	三	一	一	二	一	二六	三七〇	〇・七〇	
昭和十二	三	二	一	二	一	二六	二四五	〇・二四	
昭和十三	二〇	一	一	一	一	二三	三三二	〇・〇六	
昭和十四	二四	二	二	一	四	三三	四四五	〇・〇七	
昭和十五	三	一	二	一	一	三六	三〇六	〇・二七	
昭和十六	一五	一	一	一	一	二六	三六五	〇・〇九	
昭和十七	三	一	一	二	二	二六	三七八	〇・〇八	
昭和十八	二六	三	二	三	二	三六	三五四	〇・一〇	
昭和十九	三	二	一	一	三	二九	三三二	〇・〇九	

### ○ 産 業

商工業の發展と地勢上の關係から農業は盛大と云ふことは出来ないが、商業方面は相當發展し現に東葛飾郡北部に於ける物資の集散地となつてゐる。

工業方面では醤油と言へば直に野田を思はせる如く、從來醤油に依つて榮え又將來としても醤油によつて榮え行く町である。醤油は昔に本町に於ける特産である許りでなく、本縣重要物産である現在醬油株式会社の産額は年約七十萬石と稱され規模の大きいことは推して知るべしである。これに附隨してゐる醬油樽製造、漬物業、鹽煎餅製造業、味噌製造業其の他種々の工業も醬油醸造業の餘惠を蒙つて年々堅實な發達をしてゐる。

尙本町の産業についての詳細は數字を以て別項産業統計に掲ぐる通りである。

昭和十	二	三	二	二	一	三六	三五〇	〇・一〇
-----	---	---	---	---	---	----	-----	------



### ○野田醤油の沿革

二六

醤油醸造は今から凡そ三百七十年程前永祿年間に飯田市郎兵衛氏が創業ついで寛文元年に高梨兵左衛門氏、明和元年に茂木七郎右衛門氏、同三年に茂木七左衛門氏が醸造場を開き天明元年になつて始めて造醤油仲間が出来た。組合員は龜屋市郎兵衛、柏屋七郎右衛門、茂木七左衛門、大塚彌五兵衛、杉崎市郎兵衛、竹本五郎兵衛の七氏であつたが、更に同二年に茂木佐平治氏の醸造場が開場されて文政四年には茂木房五郎氏が茂木七郎右衛門氏から分家開業同十一年河野權兵衛氏今上村に開業、天保元年に山下平兵衛氏、茂木勇右衛門氏開業して當地の醸造家は野田組と云つて合計十九戸となつた。又嘉永二年に高梨周藏氏が高梨兵左衛門氏から分家開業、文久元年茂木利平氏が茂木佐平治氏から分家開業元治元年に高梨孝右衛門氏が高梨家から分家開業し、明治三十年十二月茂木啓三郎氏行徳町に工場を開設した。安政三年には十一戸三萬二千石、明治五年に十三戸三萬七千三百五十石、同二十二年に十二戸四萬三千六百八十七石、同四十年には十一戸で九萬九千四百五十七石、大正元年には十五萬石となつた。抑々醤油を以て其の名を知らるゝに至つたのは徳川時代の中頃で、爾來年を逐ふて隆盛を極め大正六年には山下

平兵衛氏を除く各醸造家合併して資本金七百萬圓の野田醤油株式会社とし、更に同十四年流山万上味淋株式会社及び仁川の日本醤油会社を合併して一躍三千萬圓に増資せられ、年々著しい發展を示して今日の盛況を呈するに至つたのである。尙山下平兵衛氏も最近出資金七十萬圓の合名会社に變更した。

### ○社會事業

近年複雑せる社會狀勢に鑑み特に昭和九年度より社會課を新設し、公私團體と連絡をとり事業の達成に努力してゐる。今其の主なるものを擧ぐれば、庶民の金融を圓滑ならしむる爲め公益質屋の開設、失業救済を目的とする授産場とを經營して何れも相當の成績を收めてゐる。又野田醤油の姉妹會社たる合名會社千秋社の御大典記念事業たる財團法人興風會建設による宏大なる會館もあつて圖書館、少年職業紹介其他凡ゆる社會教化並救済事業に活動してゐる。

今本町に於ける社會事業の經營種別を擧げれば左の通りである。

二七



名稱	設立年月日	經費	組織及 職員	事業ノ大要
野田町公益質屋	昭和九年一月十日	三、八八 <sup>円</sup>	野田町	庶民ノ金融
野田町授産場	昭和九年十一月五日	三、七〇 <sup>五</sup>	野田町	依編、雜巾製造 洋裁、紙袋製造其他雜用人夫 ノ紹介等
興風會	昭和四年十月	二、七〇 <sup>〇</sup>	財團法人	社會教化、並救濟、健康相談 圖書館ノ開設、少年職業紹介
野田町方面委員會	昭和四年十二月	一、三三 <sup>五</sup>	會員	方面委員事業ノ助成

公益質屋取扱狀況 (其ノ一)

年度別	貸出			辨濟		
	口數	點數	金額	口數	點數	金額
昭和八	一、八三 <sup>〇</sup>	四、五 <sup>一</sup>	七、〇七 <sup>円</sup>	三〇九 <sup>〇</sup>	六八 <sup>二</sup>	一、三九 <sup>円</sup>
						一三

昭和九	九、六 <sup>八</sup>	一四、九 <sup>五</sup>	三、九 <sup>五</sup>	七、九 <sup>七</sup>	二〇、二 <sup>九</sup>	二、四 <sup>七</sup>	一、一 <sup>八</sup>
昭和十	七、二 <sup>五</sup>	一八、七 <sup>六</sup>	一九、四 <sup>二</sup>	七、二 <sup>〇</sup>	一八、五 <sup>三</sup>	一八、三 <sup>六</sup>	一、三 <sup>四</sup>

公益質屋取扱狀況 (其ノ二)

年度別	利用者(口數)			貨物(點數)			
	勞働者 生活者 業者	小工 小商人 農業	其他	計	債券 裝身具 衣類	其他	計
昭和八	一、一〇 <sup>七</sup>	二〇 <sup>〇</sup>	四三 <sup>〇</sup>	一、八三 <sup>〇</sup>	一五 <sup>〇</sup>	四、二 <sup>五</sup>	四、五 <sup>八</sup>
昭和九	五、五 <sup>五</sup>	四 <sup>二</sup>	二八 <sup>九</sup>	九、六 <sup>七</sup>	一五 <sup>二</sup>	三、一 <sup>五</sup>	二、四 <sup>九</sup>
昭和十	三、八 <sup>四</sup>	六 <sup>〇</sup>	二二、一 <sup>三</sup>	二六 <sup>六</sup>	九〇 <sup>六</sup>	一八、一 <sup>五〇</sup>	一、七 <sup>九</sup>

○警備

一、野田町消防組



年次	沿革		昭和十一年三月末現在	
	事由	部數	定員	組
明治三十七年	設置	三	一五	部
大正十二年	變組 更織	七	三五	組
大正十五年	同	七	三七	副組
昭和二年	同	七	三七	部
昭和十年	同	九	三五	小頭
昭和十年	同	九	三五	消防手
昭和十年	同	九	三五	消防栓
昭和十年	同	九	三五	貯水タンク
昭和十年	同	九	三五	腕用唧筒
昭和十年	同	九	三五	蒸汽唧筒
昭和十年	同	九	三五	瓦斯倫唧筒
昭和十年	同	九	三五	自動車唧筒

一、警備費

備考 野田醬油株式會社ニ私設消防隊アリ現在班數二、役員三、隊員三二、自動車唧筒一、瓦斯倫唧筒一、腕用唧筒一〇ヲ有シ常ニ町消防組ト協力警備ニ當レリ

年度	種別		算計		合計豫算額	
	經常部	臨時部	合計	一戸當リ經費	一人當リ經費	
大正十五年	四、九七八	六〇〇	五、五七八	一・五〇五	三三・四	
昭和二年	五、七四七	二、五七二	八、三一九	二・一九八	四六・四	
昭和三年	六、〇七五	一、四九七	七、五七二	一・九八四	四三・〇	
昭和四	六、〇七五	一、二五四	七、三一九	一・八九七	四三・三	
昭和五	五、九四七	六三	六、五八〇	一・五七八	三四・〇	
昭和六	五、六一九	五〇四	六、一三三	一・五二五	三三・三	
昭和七	五、九七九	二五八	六、二三七	一・四九四	三三・三	
昭和八	五、九七九	二五八	六、二三七	一・四八三	三三・三	
昭和九	六、二一九	三二〇	六、四一九	一・五五八	三六・六	



水	種別	作物	付	價	額	○統計																									
						昭和十	昭和九	昭和八	昭和七	昭和六																					
稻					1,171 <sub>反</sub>	五	五	一	五	六	一	三	三	六	二	六	八	四	三	七	四	三	七	二	三	七	四	四	七	三	五、六〇〇

○農産物 (昭和十年分)

年次別	種別	出火放火			不審火			計			全燒半燒			計			損害概額
		失	火	放	火	不	審	火	計	全	燒	半	燒	計			
大正十五		六			一			六	九 <sub>戸</sub>	一 <sub>戸</sub>		九 <sub>戸</sub>	二八八、八七〇 <sub>円</sub>				
昭和二		四						四	八			二、三三三					
昭和三																	
昭和四								二				一五、〇〇〇					
昭和五		二						四				四〇〇					
昭和十																	
昭和十一								四〇〇				一、六六四	三六〇				
昭和十一												一、六五九	三五九				

一、火災狀況



陸	計	大	小	計	園藝農產物	特用農產物	果實	養蠶	其ノ他食用農產物	價額合計
稻		麥	麥							
四五一	一、六四	四〇六	四九三	八九九						一三三、六六一
	六六、二八三	一一、六九二	一三、六四九	二五、三四一	六、四〇三	三、六四九	八四二	三、一五五	七、九七七	

○工 產 物

(昭和十年分)

種	類	數	量	價	額
醬	油		四〇一、一五 <sub>石</sub>		三三、〇九三、六八一 <sub>円</sub>
醬	油ノ粕		二、八六八、九六二 <sub>石</sub>		三三一、九九六
醬	油ノ油		一六、五七七 <sub>石</sub>		三九八、三六四
味	噌		一七、六六〇 <sub>石</sub>		六、七四四
漬	物類		三八、四六〇 <sub>石</sub>		一五、四四一
木	製品		一、八七四、八七五 <sub>石</sub>		一、八三三、〇三七
鹽	煎餅		七、五三三、一六〇 <sub>石</sub>		七五、三三三
其	ノ他		—		一三五、四七二







種別	飼養戸數		飼養頭數		年內生產		年內斃死	
	計	別	計	別	計	別	計	別
牛	一〇	戸	三三	頭	八	頭	一	頭
馬	三五		五九		一			
豚	七		二六		五			
山	八		一六		四			
羊								
計	二六		三六		五		四	

○家

畜

(昭和十年十二月現在)

種別	飼養戸數		飼養頭數		年內生產		年內斃死	
	計	別	計	別	計	別	計	別
雞	四、四〇		一、三三		三		一	
合	九、四五		四、八五		三		三	
產卵	五九、七〇		一三、〇二		三、二八		七	

產卵  
(自昭和九年七月  
至昭和十年六月)

○家

禽

(昭和十年六月末日現在)

種別	飼養戸數		飼養頭數		年內生產		年內斃死	
	計	別	計	別	計	別	計	別
雞	四、七〇		三、四九		二		三	
成	七		五〇		八		一〇	
雄	七		五〇		八		一〇	
雌	三、九八		二、九二		三		三	
計	八六		八六		九		三	
數量	一五		二九		一		一	
價額	五六		五六		三		三	
數量	一五		二九		一		一	
價額	五六		五六		三		三	
數量	一五		二九		一		一	
價額	五六		五六		三		三	

雞 成

飼養戸數

數量

價額

數量

價額

數量

價額

數量

價額

雞

鶯



○工

場

(昭和十年十二月末日現在)

四〇

種類	野田分佈			計
	野田	中野臺	上花輪	
工場調査規則第一條該當	二六	二三	二〇	七九
工場調査規則第二條該當	八	二	五	一五
計	三四	二五	二五	八四

○昭和十年中郵便物取扱狀況

郵便函數	電信通數(有料ノミ)	
	發	着
發	發	信
送	二、二六八	着
到	信	信
着	三	二、二四六

○昭和十年中鐵道旅客並ニ貨物取扱狀況

郵便物	計	
	通常郵便	小包郵便
通常郵便	一、四四五、五二三	一、四三三、九八五
小包郵便	八、四七二	二、〇四五、二〇〇

○農 產 物 (累年比較)

驛名	乘 客		貨 積	
	乘	降	積	卸
野田町驛	二七、四九八	一四、〇〇八	九三、九四三	一一、五九七、七四四
愛宕驛	四、〇〇一	三、六五一	一	一
清水公園驛	六四、四九五	六四、六四四	三五	九八〇
計	二三六、九八五	二四一、二九四	九三、九七七	一一、五九八、七四四

四一



年次	種別	水	稻	陸	稻	計	大	麥	小	麥	計	其ノ他	合	計
明治四十五元		五、二七五 <sup>円</sup>		一〇、四九六 <sup>円</sup>	六、二七二 <sup>円</sup>	一五、九九五 <sup>円</sup>	一三、〇九〇 <sup>円</sup>	二九、〇一五 <sup>円</sup>	三七、〇七六 <sup>円</sup>	一七、八六二 <sup>円</sup>	二七、八六二 <sup>円</sup>			
大正九		二六、三三六		四七、八八〇	一七四、二二六	四一、三三三	三六、三七七	七六、六九〇	九八、六二五	三五、一五三	一七、八六二 <sup>円</sup>			
大正十四		九〇、四〇三		一五、〇七二	一五、四七五	一三、一六三	二二、二四	四三、二八七	六五、六六六	二六、四一八	二七、八六二 <sup>円</sup>			
大正十五元		六八、六二二		二〇、三三九	八八、七六〇	一五、〇三二	一五、五三三	三〇、五六五	五九、五四五	二七、八六二 <sup>円</sup>				
昭和二		六七、八五一		一五、七三六	八三、五八七	一〇、九九〇	一八、三五二	二九、三四二	四六、一四二	一五、九〇七	二七、八六二 <sup>円</sup>			
昭和三		六一、五五七		一八、二〇五	七九、七六一	一五、七五三	一七、二三八	三三、九九二	四六、八三三	一五、九〇七	二七、八六二 <sup>円</sup>			
昭和四		五三、九四九		一六、八八五	七〇、七四四	一三、九四二	二二、五三二	二六、四六一	三三、七九二	一三、〇二七	二七、八六二 <sup>円</sup>			
昭和五		四〇、七二二		九、九三三	五〇、六五五	七、六八三	八、八八三	一六、五六六	二七、四四五	九、四四六	二七、八六二 <sup>円</sup>			
昭和六		三三、一〇五		六、八七七	三九、九三二	六、六四四	七、四七九	一四、一〇三	二二、六四〇	七、六七五	二七、八六二 <sup>円</sup>			

〇工 産 物 (累年比較)

昭和七	四三、八二二	八、七四二	五、五五二	五、六二二	七、五六六	一三、一四八	二八、三四九	九四、〇四九
昭和八	四六、三六九	六、四八九	五、八五八	五、六六五	一一、三六七	一七、〇三二	二八、二二〇	九八、一一〇
昭和九	五六、八三三	一四、二五五	七、〇八八	九、八八四	一四、五八七	一四、四七一	一五、五九四	一一三、一五三
昭和十	五〇、〇七二	一六、二二二	六、二八三	二、六九二	一三、六四九	二五、三四二	一一、〇三五	一一三、六六一

年次	種別	醬油	油	醬油粕	醬油ノ油	味	噌	漬	物	木製品	其	他	合	計
大正十四		九、六八二、八三〇 <sup>円</sup>	二八九、九七九 <sup>円</sup>	四五、一三〇 <sup>円</sup>	七三、〇〇九 <sup>円</sup>	六、四三二 <sup>円</sup>	四、〇六一、九三五 <sup>円</sup>	一三九、三三六 <sup>円</sup>	一四、二九八、六二〇 <sup>円</sup>					
大正十五元		九、四五六、九四六	三三〇、二三六	八三、〇六六	五六、八九三	一〇、五四七	二、二四一、八七七	二二七、七四八	二、三三九、二二三					
昭和二		九、八四七、二五七	二八四、九九八	八五、五五二	四三、七四〇	一四、七八八	二、〇六五、一〇四	一六九、五四八	二、二五二〇、九一六					



年別	現住人口		本籍人口	前年ニ比シ増減	均現住人口		
	男	女					
昭和十	三三二、九九六	三九八、三八四	六、七七四	一五、四四二	一、八三二、〇三七	一三五、四七二	一四、八六八、〇二五
昭和九	二四七、六八五	三三四、一六七	七、三三二	一一、三八〇	一、七八一、八八〇	一三七、六六六	一、二七五、八七九
昭和八	一八三、六七七	三八七、四六三	八、〇七七	一〇、九四四	一、三八八、三三四	八五、一八七	九、二四七、九一八
昭和七	一三三、九七〇	一〇四、三五二	八、二〇九	一〇、一五二	二、〇三八、七〇九	七二、二〇〇	二、二〇八、三五六
昭和六	三三二、四〇〇	一一八、〇八八	一三、二一八	九、四四三	二、〇七六、九一四	七二、一九三	一、三五七、〇二六
昭和五	一七四、六六三	一三六、二〇九	一四、九五六	一一、八二八	二、三六六、二二七	一〇一、八九二	一、三九五、一九四
昭和四	三四九、六二二	二〇八、三五六	一六、一九八	一〇、〇九四	二、五八三、〇四九	一三四、九一四	一、五六八、〇六九
昭和三	四四、一三八	一三七、四九六	三、八、五〇〇	一、八、六六三	二、四九四、四八〇	一一六、八八九	一、四五四、〇三三

〇戸 (各年十月一日現在) △印ハ減

年種別	現住戸數	現住人口		本籍人口	前年ニ比シ増減	均現住人口
		男	女			

年種別	現住戸數	現住人口	本籍人口	前年ニ比シ増減	均現住人口		
明治四十五元	一、六九七	四、七九九	四、七六二	九、五六二	五、六一〇	一	五、六
大正九	二、八二〇	六、二六〇	五、六五四	一一、九二四	九、四四六	一、二二三	三、八一六
大正十四	三、五四二	八、四三八	七、六三二	一六、〇九〇	一一、三五三	七三二	一、九七
大正十五元	三、七〇六	八、六六二	八、〇〇九	一六、六七二	一一、九二五	一六五	五六一
昭和二元	三、七八四	九、六七三	八、二二八	一七、八九二	一二、四八一	七八	五六六
昭和三元	三、八一六	九、一五二	八、四五五	一七、六〇六	一二、九六六	三三	四八五
昭和四	三、八六五	九、三三八	八、五〇一	一七、七三九	一三、三三六	四九	三七〇
昭和五	四、一五七	一〇、〇〇三	九、二八八	一九、二九二	一三、七七三	二九二	四三七
昭和六	四、〇三二	九、五八三	九、三三八	一八、九二二	一四、三九三	△二六	六〇
昭和七	四、一七二	九、六九二	九、五七三	一九、二六四	一四、八五二	△二四	四五九



年次	種別	婚姻組數		離婚組數		出生		死亡		產		死亡	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
明治四十五元	大正	二〇〇	一五	一〇二	二二	一九	一五	三	三	四	九	七	一六
大正九	大正	二六六	三	二七	一五〇	五八	二	三	一	三	二	一	四〇
大正十四	大正	三五〇	四	二二	二二	四七	一八	四	一	四	一	一	二六
大正十五元	昭和	三四〇	一八	一五	一四	四九	二	三	一	三	一	一	二六
昭和二元	昭和	三三八	三四	二〇	二〇	四〇	一四	二	一	二	一	一	二四
昭和三元	昭和	三六〇	二四	一五	二五	五〇	二	三	一	三	一	一	二五
昭和四元	昭和	三六	三〇	二四	二〇	四六	三	三	一	三	一	一	二四
昭和五元	昭和	二二〇	一五	一三	一三	四九	一	三	一	四	一	一	二二

○本籍人口動態 (各年末現在)

施行期日	世帯	人口		世帯	比較増減		
		男	女		男	女	
大正十九年	二、八〇〇	六、二〇〇	五、六五四	二、九一四	一	一	一
大正十四年	三、五四二	八、四八八	七、六三一	一六、〇九〇	七	二、一九八	一、九六八
昭和五年	四、一五七	一〇、〇三三	九、二六八	一九、二九一	六	一、五五五	一、六三六
昭和十一年	四、二二六	九、五七一	九、九〇八	一九、四七九	五	△四五一	六四〇

○國勢調査ノ結果ニ依ル世帯人口 △印ハ減

昭和	昭和	昭和
八	九	十
四、一〇三	四、二四	四、二二六
九、五四	九、二八五	九、五七二
九、六四	九、五七	九、九〇八
一九、一四八	一八、八三三	一九、四七九
一四、九五二	一五、五六六	一六、〇九五
三	△七	九
△二六	△三六	六五七
一〇〇	六二四	五九
四・五	四・五	四・七



昭 和 十	昭 和 九	昭 和 八	昭 和 七	昭 和 六
二〇八	一四四	一八一	二二二	一九九
二〇	三三	三三	三三	三三
二七五	二二六	二六四	二七二	二六六
二五三	二四九	二五二	二六四	二六五
五八	四六五	五三三	五三六	五五一
二二	一九	一七	一九	一三
一五	一〇	一三	一〇	一三
一	一	一	一	一
三六	二九	三〇	四〇	四五
一四五	一三九	一五九	一六一	一五〇
一三三	一三八	二二五	二二七	一三三
一	一	一	一	一
二七八	二七七	二六四	二八八	二八二

○選舉狀況

院 衆 議	選 衆 議	選 舉	確 定 名 簿 登 錄 者 數	選 舉 當 日 有 權 者 數	投 票		棄 權	
					有 効	無 効		
昭 和 五 年 二 月 二 十 日	昭 和 三 年 二 月 二 十 日	昭 和 三 年 二 月 二 十 日	三、七四	三、四七〇	三、〇四四	二、七六一	六六	〇・一六七
			三、七六	三、四三	四九	二、八二五	六六	〇・一七九

選 議 町 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會	選 議 縣 學 員 會
昭 和 八 年 四 月 十 四 日	昭 和 四 年 四 月 十 四 日	昭 和 十 一 年 一 月 二 十 日	昭 和 七 年 一 月 二 十 日	昭 和 三 年 一 月 二 十 日	昭 和 十 一 年 二 月 二 十 日	昭 和 七 年 二 月 二 十 日	昭 和 三 年 一 月 二 十 日	昭 和 十 一 年 二 月 二 十 日	昭 和 七 年 二 月 二 十 日	昭 和 三 年 一 月 二 十 日
三、九五七	三、五九	四、〇八一	三、八八九	三、三三一	四、二七七	三、九九五	三、三三一	四、二七七	三、九九五	三、三三一
三、八九二	三、四六一	四、〇〇二	三、七九〇	三、二九七	四、一三四	三、九六七	三、二九七	四、一三四	三、九六七	三、二九七
三、四五六	三、一〇二	三、四七七	三、一四九	二、六五四	三、五七七	三、三七五	二、六五四	三、五七七	三、三七五	二、六五四
一〇三	七〇	五八	五五	五〇	五二	四三	五〇	五二	四三	五〇
三、五五九	三、一七二	三、五二五	三、二〇四	二、七〇四	三、五八九	三、四一八	二、七〇四	三、五八九	三、四一八	二、七〇四
三三二	二八九	四八七	五八六	五九三	六四五	五四九	五九三	六四五	五四九	五九三
〇・〇八五	〇・〇八三	〇・二二二	〇・一五四	〇・一七九	〇・二五二	〇・一三八	〇・一七九	〇・二五二	〇・一三八	〇・一七九

○官公署

名	稱	所 在 地	開 設 年 月	備	考







○町會議員、委員、區長及區長代理者、吏員、

○町會議員

(定員 二四名)  
缺員 四名

駒崎善三郎	染谷四平	高橋一尙	戶邊一郎	中川仲右衛門	中村善之助	張谷偶一郎	茂木林藏	茂木順三郎	茂木七左衛門
遠藤喜三	寺田時治	吉澤房五郎	戶邊清次郎	高梨政之助	中村熊次郎	飯田五右衛門	飯田市郎兵衛	茂木房五郎	茂木佐平治

○常任委員

茂木房五郎  
飯田市郎兵衛  
遠藤喜三  
中村善之助

○學務委員

茂木七左衛門  
茂木順三郎  
高梨政之助  
茂木林藏  
松山隆

○土木委員

高梨政之助  
茂木林藏  
戶邊五右衛門

茂木佐平治  
茂木房五郎  
飯田市郎兵衛  
戶邊五右衛門  
松井和夫



茂木順三郎  
中村熊次郎  
駒崎善三郎

○傳染病豫防委員

飯沼龜之助

中川仲右衛門

○公益質屋委員

中川仲右衛門

寺田時治

大石半次郎

○方面委員

張谷侗一郎

高梨政之助  
戶邊清次郎

小田倉一  
寺田時治

遠藤喜三次  
小室光盈

高梨政之助

中村熊次郎

岩口石藏

和光堅正

小室光盈

○少年教護委員

岩口石藏

榊田定吉

茂木林藏

○區長區長代理者

上町區長

同代理者

中町區長

中川仲右衛門

山口永隆

古谷光隆

山口永隆

寺田時治

山口永隆

寺田時治

茂木房五郎

小張卯吉

茂木佐平



同代理者  
 同代理者  
 下町區長  
 同代理者  
 上花輪區長  
 同代理者  
 上花輪太子堂區長  
 同代理者  
 中野臺區長  
 同代理者  
 清水區長  
 同代理者  
 堤臺區長

茂木林藏  
 茂木順三郎  
 中村熊次郎  
 高梨政之助  
 榊田定吉  
 小澤元吉  
 中山長吉  
 茂木熊藏  
 戶邊五右衛門  
 駒崎善三郎  
 戶邊彌五右衛門  
 山縣英吉

同代理者

○吏

員

町長  
 助役  
 收入役  
 文書課  
 同課長  
 同課員  
 庶務課  
 同課長  
 同課員  
 同課員

戶邊秋藏  
 飯田謙次郎  
 黒川勇太郎  
 新井熊雄  
 黒川勇太郎  
 高橋利三郎  
 間中長吉  
 渡邊朝五郎  
 齋藤利貞  
 小倉幸三郎  
 助役  
 書記  
 書記  
 書記  
 書記  
 技術員  
 書記







○各種團體

名稱	創立年月	會員數	備考
帝國在郷軍人會 野田町分會	明治四十三年 十一月	四四八	○聖旨を奉體して軍人精神を鍛錬し軍事能力を増進するを本旨とし延いて社會の公益を圖り風教を振作し恒に國家の干城となり國民の中堅たる實を擧ぐるにあり。
帝國在郷軍人會 野田醬油株式會社工場分會	大正十一年 一月	四〇三	右ニ同ジ
千葉縣國防協會 野田町分會	昭和十一年 一月	九七一	○國防の本義を普及徹底、國防の實績を具現し國民精神を作興し帝國國防の完備を期せんとするにあり。
野田町軍友會	昭和十一年 一月	二四五	○會員相互の和親團結を圖り克く在郷軍人分會の堅固なる支援となり會員をして終生軍人精神を堅持し君國の爲に奉公の至誠を捧げ以て「良兵良民」として有終の美を發揮せむとするにあり。

野田町消防組	明治三十七年 五月	三三八	○水火災其他町一般の警備。
野田町青年團	大正十四年 一月	三二〇	○實質剛健なる國民精神の涵養と團員一致協力秩序と統制ある團體的訓練に努め、特に節義を守り廉恥を重んじ獻身奉公の實を擧げ以て郷土振興に貢獻せんとするにあり。
野田町商工會	大正十一年 一月	三五〇	○商工業の發展向上を圖らんとするにあり。
野田町農會	明治三十二年 三月	四四二	○農事の改良發達を期せんとするにあり。
野田町教育會	大正十年 四月	三七三	○教育事業の向上發展を期せんとするにあり。
野田町方面 委員助成會	昭和二十四年 十月	六四	○方面委員事業を助成せんとするにあり。 ○學國皆兵護國の大義に基き日本婦人として我國傳





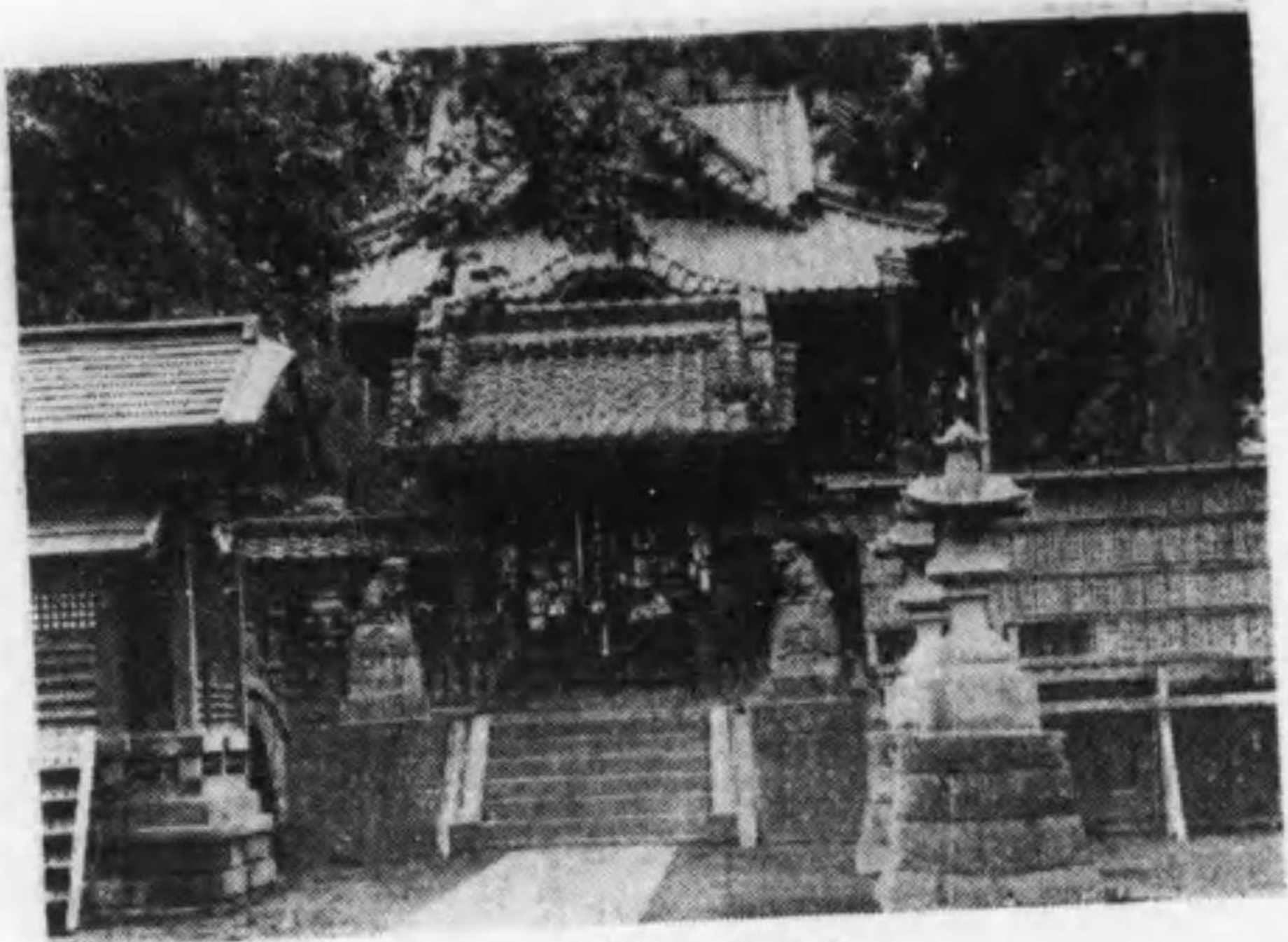


野田株式會社	野田商誘銀行	野田株式會社	野田商誘銀行
七明治三十三年	七明治三十三年	七明治三十三年	七明治三十三年
三百萬圓	三百萬圓	三百萬圓	三百萬圓
大宮驛船橋驛間六十二軒九の全通を見るに至つた。昭和四年十一月總武鐵道株式會社と改稱された。	銀行業 營業開始以來實に三十有餘年其の堅實なる營業に依つて益々信用を高め當地方一圓に於ける金融機關の中心をなしてゐる。柏町に出張所がある。	醬油、味噌の醸造販賣 天保元年創業以來山下平兵衛氏の個人經營であつたが昭和十一年四月合名會社に變更されたものである。	○運輸取扱業 昭和五年六月合資會社丸三野田運送店と野田運輸株式會社と合併して現在野田運輸株式會社となつた然して當地方の運輸事業を双肩に擔つてゐる會社である。

野田株式會社	野田製氷所	野田株式會社	野田株式會社	野田株式會社	野田株式會社	野田株式會社	野田株式會社
一十昭	一十昭	一十昭	一十昭	一十昭	一十昭	一十昭	一十昭
二萬圓	二萬圓	二萬圓	二萬圓	二萬圓	二萬圓	二萬圓	二萬圓
○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業	○酒類販賣業



合資會社 高羽松五郎商店	合資會社 野田保全社	合資會社 石黒商會社	合資會社 野田商會社	株式會社 野田葬儀社	株式會社 大宮遊覽自動車	合資會社 鶴屋自動車商會
昭和十一年九月	昭和九年二月	昭和八年十月	昭和五年六月	大正十四年四月	昭和十年八月	昭和五年七月
千圓	千圓	二千圓	四千圓	一萬圓	一萬二千圓	一萬五千圓
○古物煤炭	○保險業	○保險業	○金貸業	○葬儀業	○自動車運輸業	○自動車運輸業



愛宕神社

### ○神社

#### 一、愛宕神社

野田上町に鎮座、指定村社で野田開墾後火災除の神として延長元年山城國愛宕の里に祀られてある加具土命の分靈を遷し奉つたのである。

例祭日は十月二十四日である、社殿の周圍には北埼玉郡川俣村の人三村吉左衛門正利の傑作で名高い彫刻がある尙境内には嘉永二年五月野田門人、田中年麗舎、茂木柏樹等の建設したる左の碑がある、其の他稻荷神社菅原神社、抱瘡神社、三峯神社等が祀られてあつて、遠近を問はず參詣人の絶間がない。

豪賜宗匠 歌恒眞顔

あらそはぬ風の柳の糸にこそ

堪忍袋ぬふへかりけれ

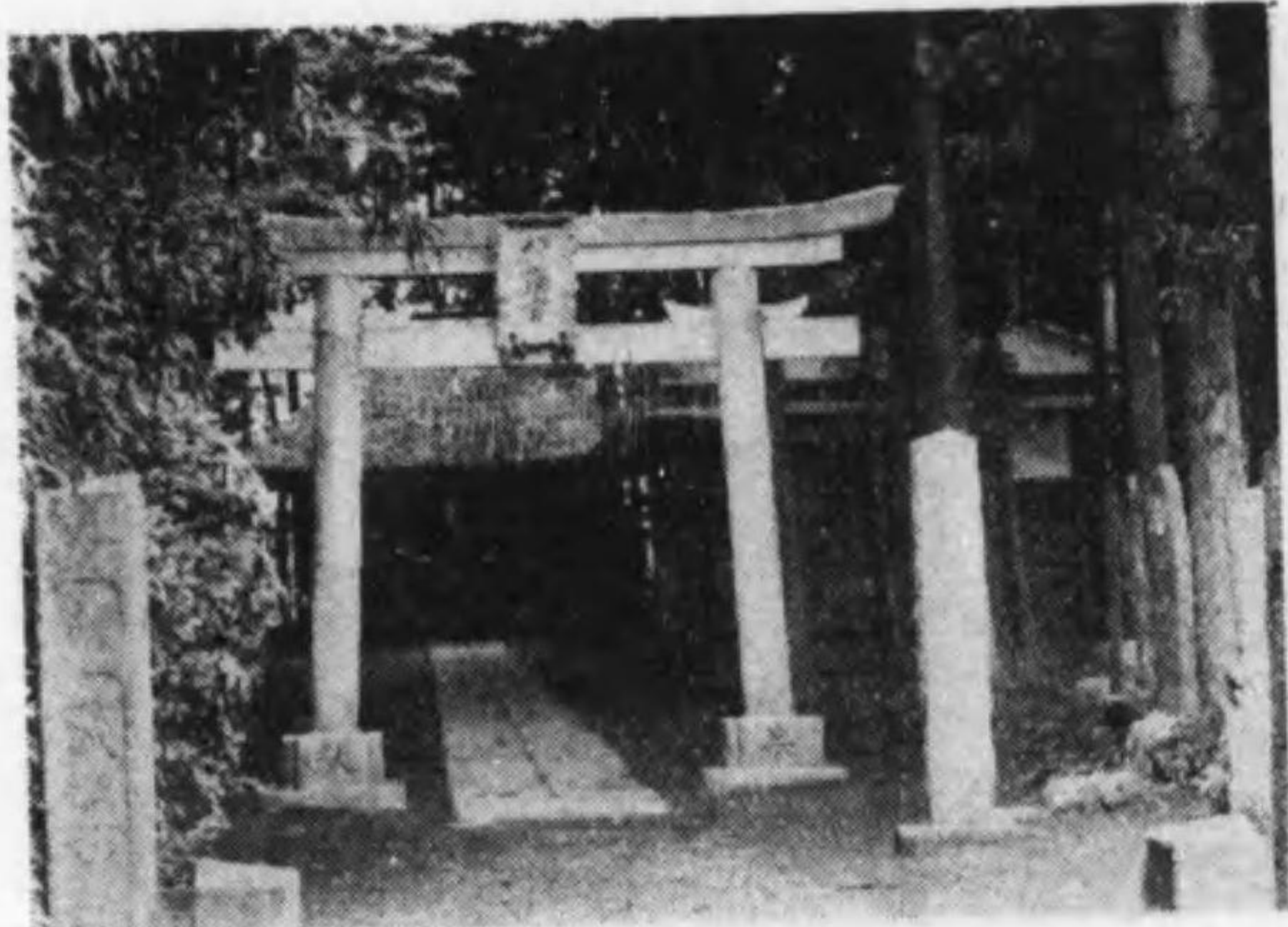




香取神社

一、香取神社

上花輪に鎮座、指定村社であつて祭神は經津主命である、天文年中教學坊と稱した人に依つて、當地に安置したのが創めで其の後慶安三年教學坊三世の孫門倉祐從氏が氏神と爲し、貞享二年祠を建立し上花輪村の鎮守としたが、享保十二年に正一位の尊號を賜つて野田郷の總鎮守となつた、其の後、文政四年六月祠を再建したが、大正十五年四月二十五日焼失したので、工費數萬圓を投じて壯麗な現在の神殿を建立されたのである、尙境内には菅原神社、大杉神社、稻荷神社、栗島神社、三峯神社等が祀られてある。



八幡大神

一、八幡大神

提臺にある指定村社で、祭神は譽田別命で例祭は十月十五日である、境内は五百八十九坪ある、往昔岡部美濃守藤原宣勝がその城内へ神殿を造られたのが創めで、後堤臺區の鎮守となし慶安元年九月三代將軍家光公から判物頂戴したと傳へられてゐる、尙境内には大杉神社、淺間神社等が祀られてある。





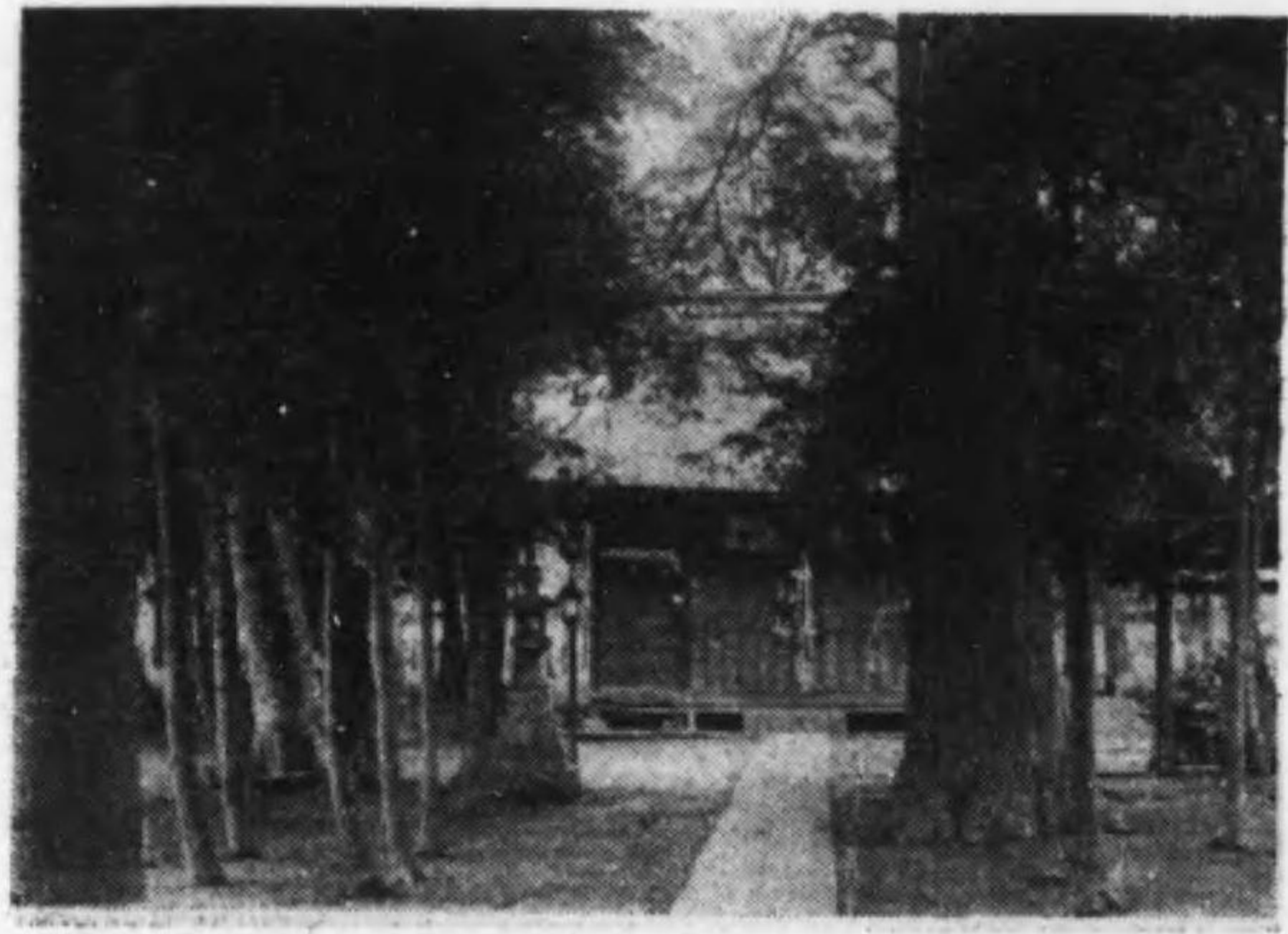
八幡神社

一、八幡神社

清水区にある村社で祭神は譽田別命で例祭は十月十五日である、往昔此の里人が當社を祭つた處神殿から少し隔つた地から清水が噴出したので大に恐れて之を御手洗と唱へ、此の時から清水八幡大神と尊稱して、鎮守にしたのである。

一、鹿島神社

中野臺區鹿島脇にある指定村社で祭神は武甕槌命で例祭は十月十五日である。



鹿島神社

一、神明神社

上花輪字神明腰にある村社で、天照大神を祀つてある上花輪太子堂區の鎮守で例祭は十月十五日である。

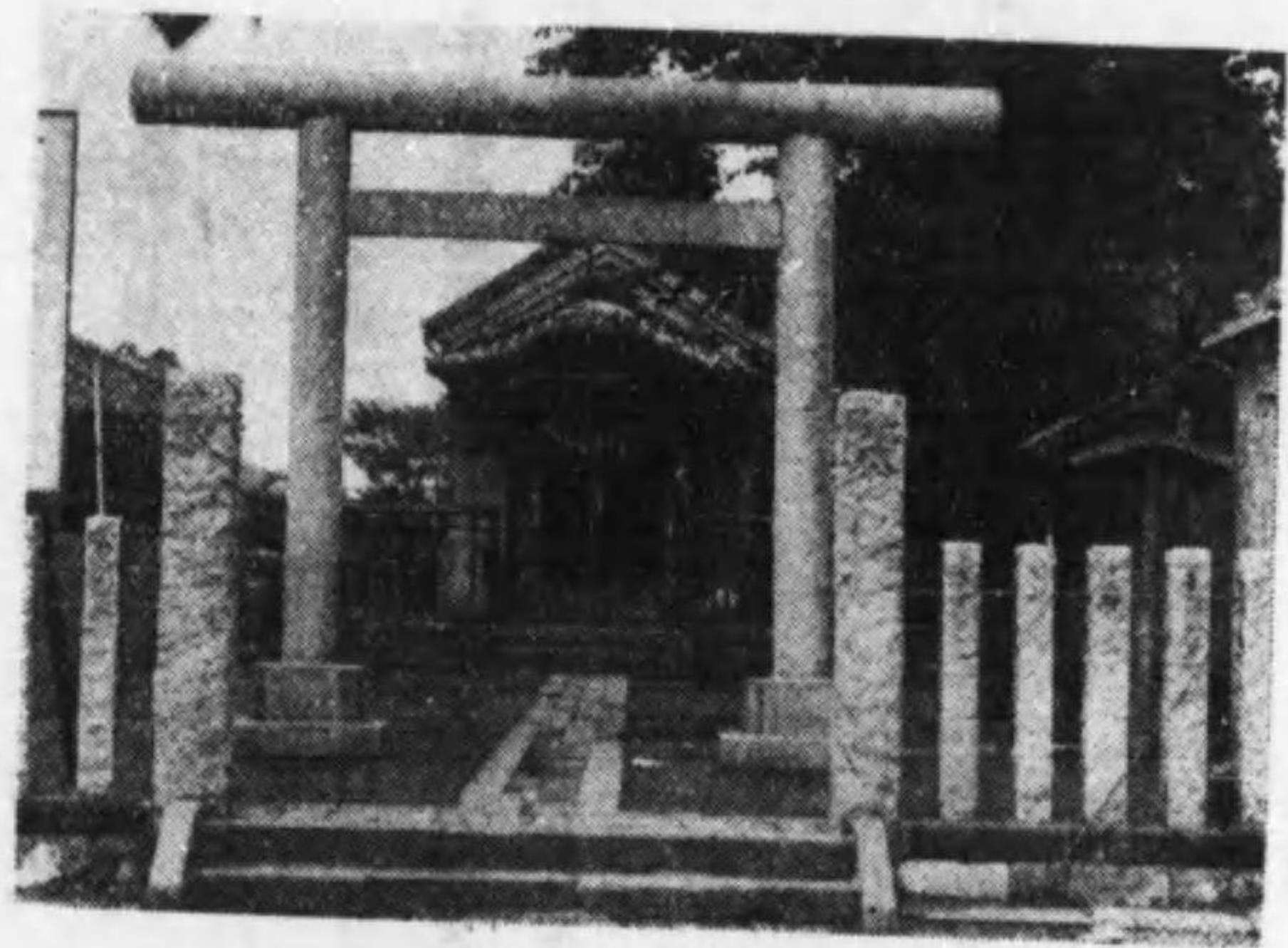
一、須賀神社

野田下町にある無格社で祭神は素盞鳴尊である。





神明社



須賀神社

### ○佛閣

○金 乘院

慈光山と號し、眞言宗にして清水區にある當界限での名寺である、境内は二千六百八十餘坪ある、堂宇は間口八間五尺、奥行六間二尺、中門鐘樓の外有名な仁王門がある、又境内には不動堂がある、永享三年三月二十八日の建立であつたが、天明二年十二月焼失した爲、再建した、其の後廢頽したので明治十二年八月に三度目の建營をして今日に至つた。

○西 光院

愛宕山と號し、眞言宗にして寛永二十年十月の建立であるが、後天保十五年再建して今日に及んでゐる、境内廣く西方には鬱蒼たる老杉が繁り藤柵、花昌蒲、櫻等の植込もあつて、鐘樓の傍には伊左衛門櫻と言ふ巨木があり左の有名な句がある。

○鐘の音にそへてさくらの手向哉



○報恩寺

中野臺にあつて、西高野山と號し眞言宗にして、俗に大師山と云つて名高い寺院である、慶應二年に野田町堤臺（當時堤臺村）に創立されたが、明治二年に現在の所に建設移轉されたのである、土地高く四方の眺望も亦豊である。

○長命寺

極樂山と號し眞宗であつて太子堂にある、承久二年四月の創立であつたが、建武の役に兵火の爲焼失し、寛文二年再建し西念寺と稱してゐたが、文政三年に現在の寺名に改めた、境内には本町の出身で大橋宗桂の門人、將棋五段、花輪堂白木老人事、山下半次郎の碑がある、尙寺寶として保存尊重されてゐる有名な尊朝親王御銘土佐光成の聖德太子繪傳四軸と親鸞上人御作の聖德太子の木像がある。

○明淨寺

野田下町にあつて和光山と號し、眞宗にして至徳元年に再建されたのである、始めは梅郷村山崎にあつたが大正元年に現地へ建立移轉したのである、同寺には往時親鸞上人當地方に弘法の際、一宿の上拜

札されたと傳へられてゐる。

○東正寺

天臺宗にして湯王山と號し、野田下町にある、寛文十二年五月の創立で明治十二年四月に再建した寺院である、尙境内には聖天堂があつて之れが信仰する參詣人が多い。

○東福寺

上花輪にある神明山と號する、眞言宗の寺院である。

○公園

○清水公園

總武鐵道清水公園驛から西方約五町の處にあつて一名聚樂園とも云ふ、屈曲狹長園圍實に一里二十餘町、風光明媚なる座生沼に臨み櫻躑躅頗る多く、北總に於ける花見の名所として其の名世に知られてゐる、明治二十七年四月の開園で其の面積約五萬數千坪園内には野球場、釣堀、兒童運動場、聚樂館等があり、又花見の季節には貸舟、貸ボートの設備等がある、特に園は櫻樹を利用して取付けたる數千の電



燈は夜の櫻に一段の美景を添へて、晝夜の別なく最も花見に適した所である。

○愛 趣 園

總武鐵道愛宕驛の西方約二丁の地にあつて、明治三十五年の開園である、其の面積約三千坪、園内には櫻及藤、花昌蒲を植え、又至徳泉なるものあつて、四時水を湛え、英氣を養ふに適してゐる、世に名高い勝軍地藏尊と、愛宕神社、西光院等も此の園内にある勝軍地藏は靈威赫々として近郷に知られ、往時徳川家康この地を通過せし時親しく戦捷を祈願せしと傳へられてゐる、日清、日露の役に當り配與せられたる靈符は實に數十萬と云はれてゐる、亦東郷元帥、伊藤海軍大將には遙かに御靈徳の尊きに感激して勝軍の二大字を揮毫せられ扁額として捧げられてある。

○朝日ヶ岡公園

明治四十三年四月の開設で、野田町驛より西方約四丁の地にあつて、面積は約七百坪、老杉鬱蒼として繁り附近の廣い水田が風趣をそへて殊に夏季に於ける夕涼みに適してゐる、園内には東郷元帥の揮毫にかゝる大忠魂碑と、日清、日露の從軍記念碑がある。

昭和十一年六月二十六日印刷  
昭和十一年七月一日發行

編輯兼  
發行人

千葉縣東葛飾郡野田町中野臺百六十一番地ノ一

飯 田 謙 次 郎

印刷者

千葉縣東葛飾郡野田町野田二百八十五番地

南 寅 治 郎

印刷所

千葉縣東葛飾郡野田町野田二百八十五番地

南 盛 堂 印 刷 所



終

